

個人投資家向け会社説明会

～名古屋開催～ 会社説明資料

2025年11月29日

証券コード：3107



ダイワホールディングス株式会社

1. 会社概要
2. 業績推移
3. 2026年3月期 第2四半期決算
4. 当社事業の強みと戦略
5. 中長期ビジョン『2030 VISION』
6. 株主還元

| ダイワボウホールディングス 会社概要

ダイワボウホールディングス株式会社



本社所在地

〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号
中之島フェスティバルタワー・ウエスト28階

設立日

大和紡績として創立 1941年4月1日
ダイワボウホールディングス設立 2009年7月1日

連結従業員数

3,127名（2025年9月末現在）

資本金

216億9,674万4,900円

株式

東証プライム市場 証券コード **3107** / 業種：**卸売業** <JPX日経インデックス400構成銘柄>



代表取締役社長
西村 幸浩

事業内容

▶ ITインフラ流通事業

[中核会社] **DIS** ダイワボウ情報システム株式会社

コンピュータ・周辺機器・ソフトウェアの販売
および物流サービス業
コンピュータ機器等の導入・保守・修理サービス業

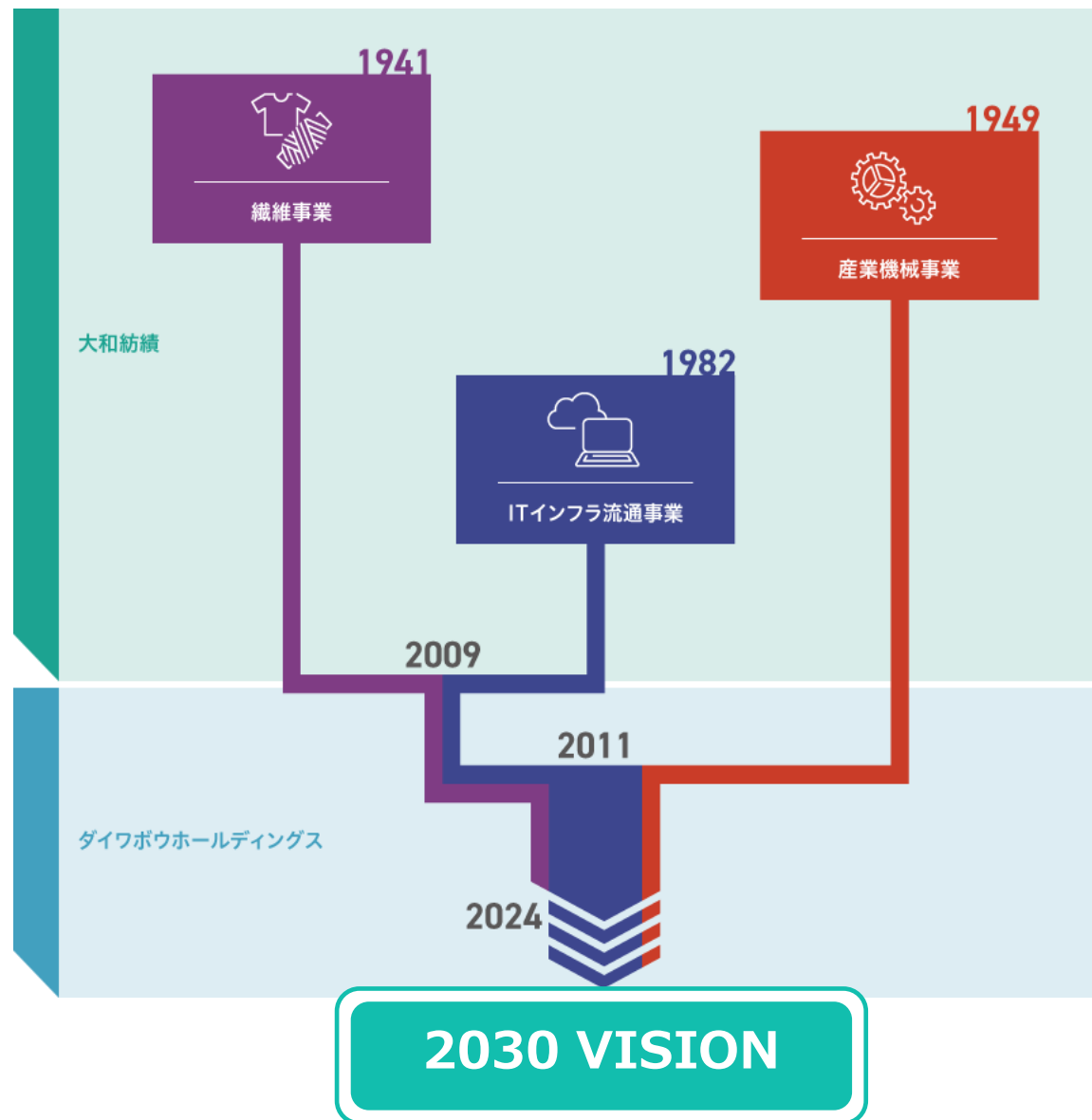
▶ 産業機械事業

[中核会社] **オーエム製作所**

工作機械、自動機械および鋳物製品の製造販売業

※大和紡績株式会社は2024年3月27日に独立いたしました。
（発行済株式の85%を株式会社アスパラントグループへ譲渡）

グループの沿革



- 1941年 大和紡績 発足
- 1949年 穴道工場分離 大和機械工業 設立
- 1960年 大阪機械製作所と合併 オーエム製作所設立
- 1982年 ダイワボウ情報システム 設立
- 2009年 大和紡績とダイワボウ情報システム 経営統合
ダイワボウホールディングス(株) へ商号変更
- 2011年 オーエム製作所と経営統合 3事業体制へ
- 2024年 大和紡績の独立、『2030 VISION』発表



ダイワボウホールディングス株式会社

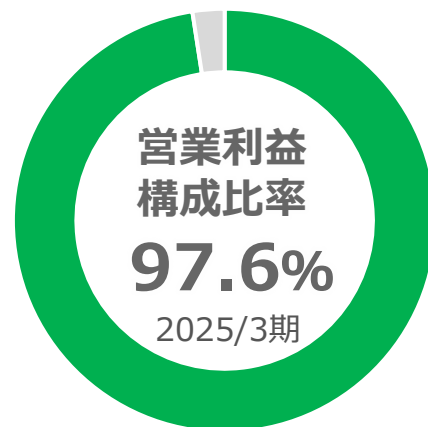
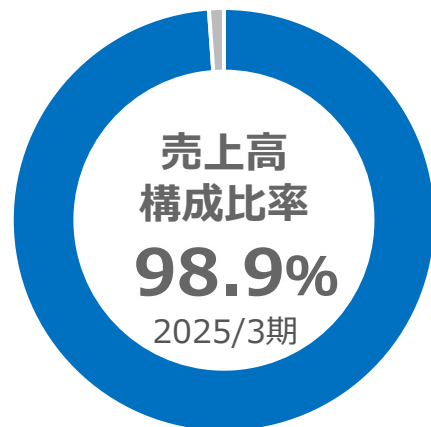
ダイワボウグループの持株会社

- ・グループ全体の成長エンジン
- ・最適な経営資源配分の司令塔
- ・未来を創る経営基盤の構築

ITインフラ流通事業

【中核事業会社】

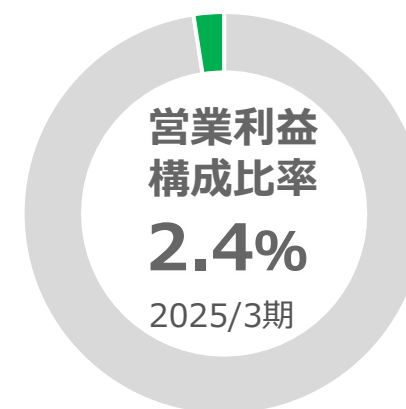
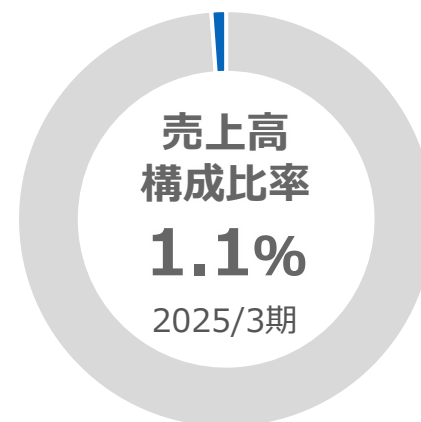
DIS ダイワボウ情報システム株式会社



産業機械事業

【中核事業会社】

 **オーエム製作所**



| 業績推移

業績推移（売上高）

売上高

ROE

ROA

自己資本比率

2010/3

4,489億円

4.6%

1.8%

17.8%

2025/3

1兆1,368億円

16.8%

8.4%

34.6%

↑15年で約2.5倍

GIGA School 第2期

Win10 EOS

1兆3,370億円

(11/6に上方修正)

GIGA School第1期

Win7 EOS

1兆1,368億円

1兆435億円

9,440億円

7,855億円

7,638億円

9,039億円

9,677億円

WinXP EOS

4,489億円

収益認識に関する
会計基準の適用

繊維事業の独立

2010/3 2011/3 2012/3 2013/3 2014/3 2015/3 2016/3 2017/3 2018/3 2019/3 2020/3 2021/3 2022/3 2023/3 2024/3 2025/3 2026/3
(見通し)

業績推移（営業利益）

営業利益

2010/3
50億円

ROE

4.6%

ROA

1.8%

自己資本比率

17.8%

2025/3

348億円

16.8%

8.4%

34.6%

↑ 15年で約7倍

GIGA School 第2期

Win10 EOS

GIGA School 第1期

Win7 EOS

WinXP EOS

450億円
(11/6に上方修正)

348億円

309億円

279億円

240億円

350億円

328億円

227億円

50億円

繊維事業の独立

2010/3 2011/3 2012/3 2013/3 2014/3 2015/3 2016/3 2017/3 2018/3 2019/3 2020/3 2021/3 2022/3 2023/3 2024/3 2025/3 2026/3
(見通し)

GIGAスクール構想とは？

GIGAスクール構想とは、2019年に文部科学省から発表されたプロジェクト

ICTの環境整備



小中学校で
1人1台PC配布



ネットワーク
整備



全国の自治体・
学校の調達を支援

デジタルによる教育の充実



デジタルコン
テンツの活用
促進



ICT活用によ
る学習活動の
共有



AI等の先端
技術の活用



全国の児童生徒へ

DIS

全国の販売パートナーと共に
GIGAスクール構想を支援

教育委員会カバー率
98%以上

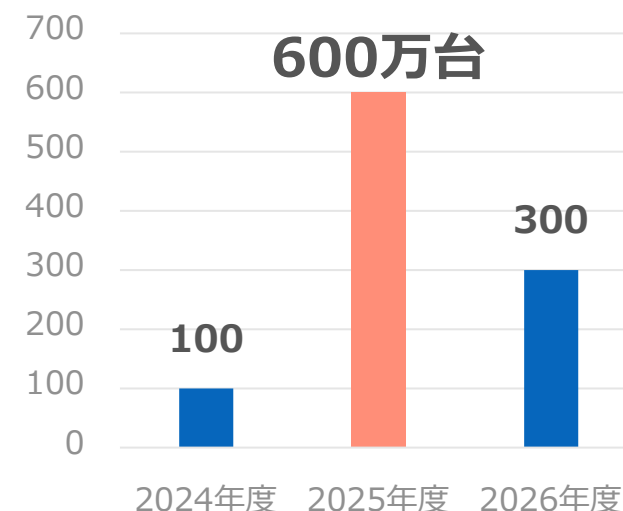
小中学生の人数
約1,000万人



第2期の端末台数需要予測

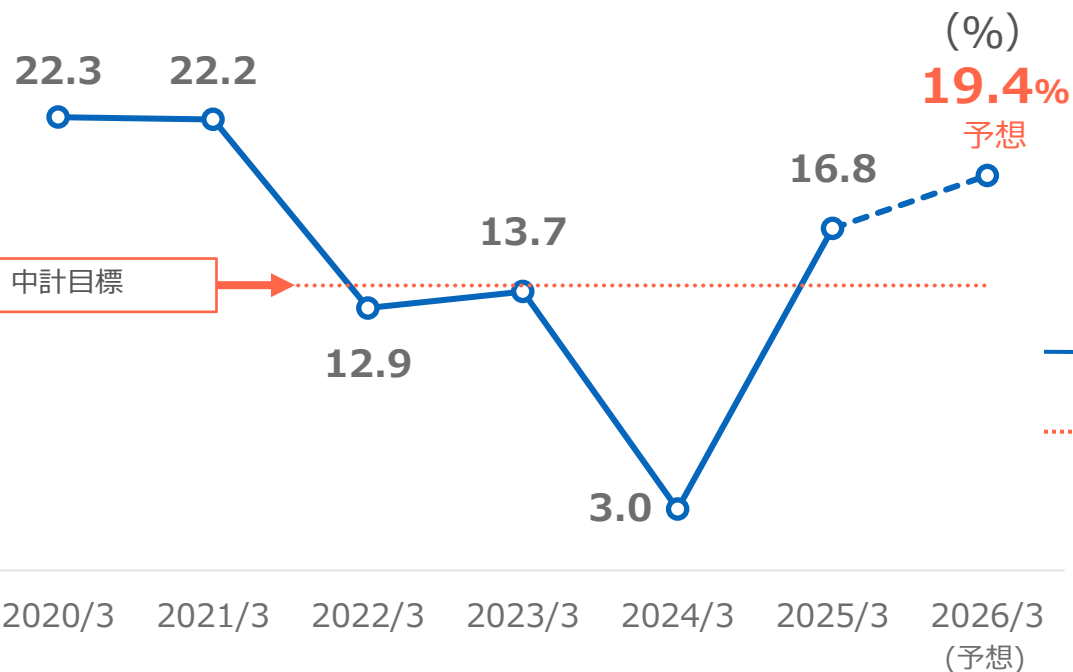
(当社試算)

(万台)



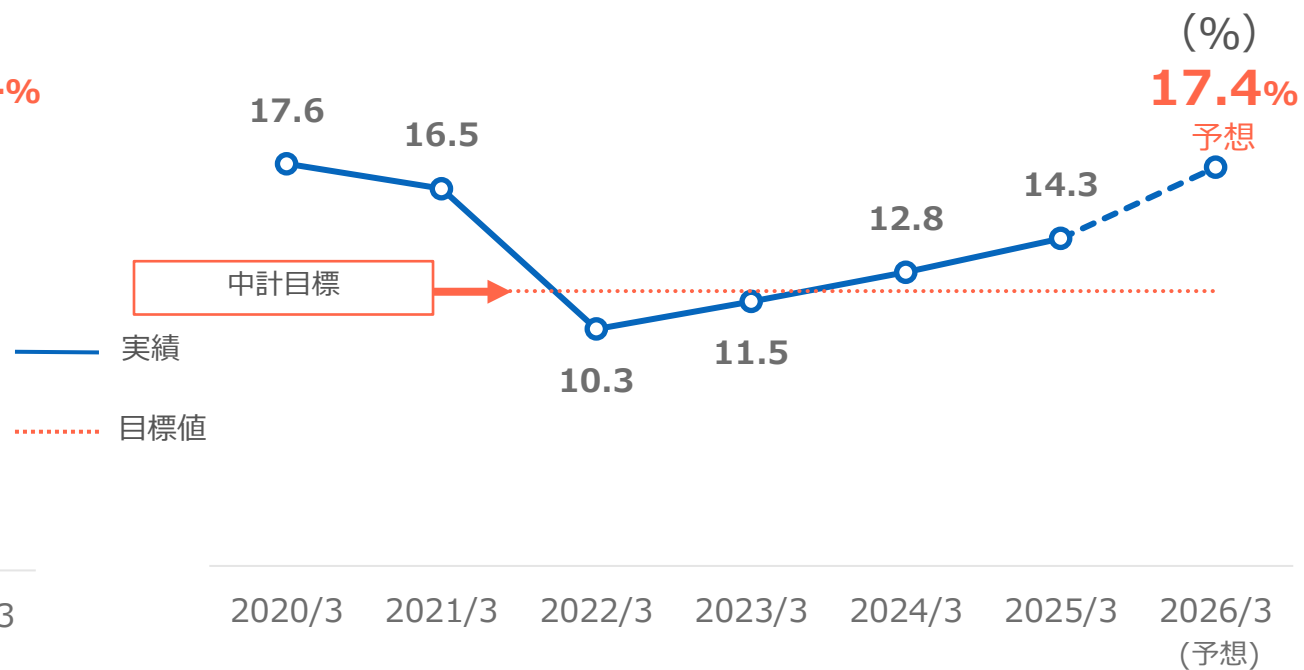
ROE 14%以上

自己資本当期純利益率
＜株主資本に対するリターン＞



ROIC 12%以上

投下資本利益率
※税引後営業利益／（純資産＋有利子負債）
＜投下資本に対するリターン＞



好調な業績を背景にROE・ROICともに
中計目標水準をクリアする見通し

| 2026年3月期 第2四半期決算（中間期）

2026年3月期 第2四半期 (2025年4月1日～2025年9月30日)

売上伸長と収益性維持によって上期で初の営業利益200億円超え
下期も好調に推移する見通しから業績予想を上方修正

ITインフラ 流通事業

- Windows10サポート終了を直前にした中堅・中小企業によるPC更新需要、また本格化したGIGAスクール第2期の納入が全体を牽引し売上高と営業利益を押し上げ
- iKAZUCHI(雷) は1Qに続いてPC更新時のクロスセル提案が奏功し、実績を積み上げ
- 1Qから売上総利益率が低下した一方、販管費率の減少によって収益性を維持

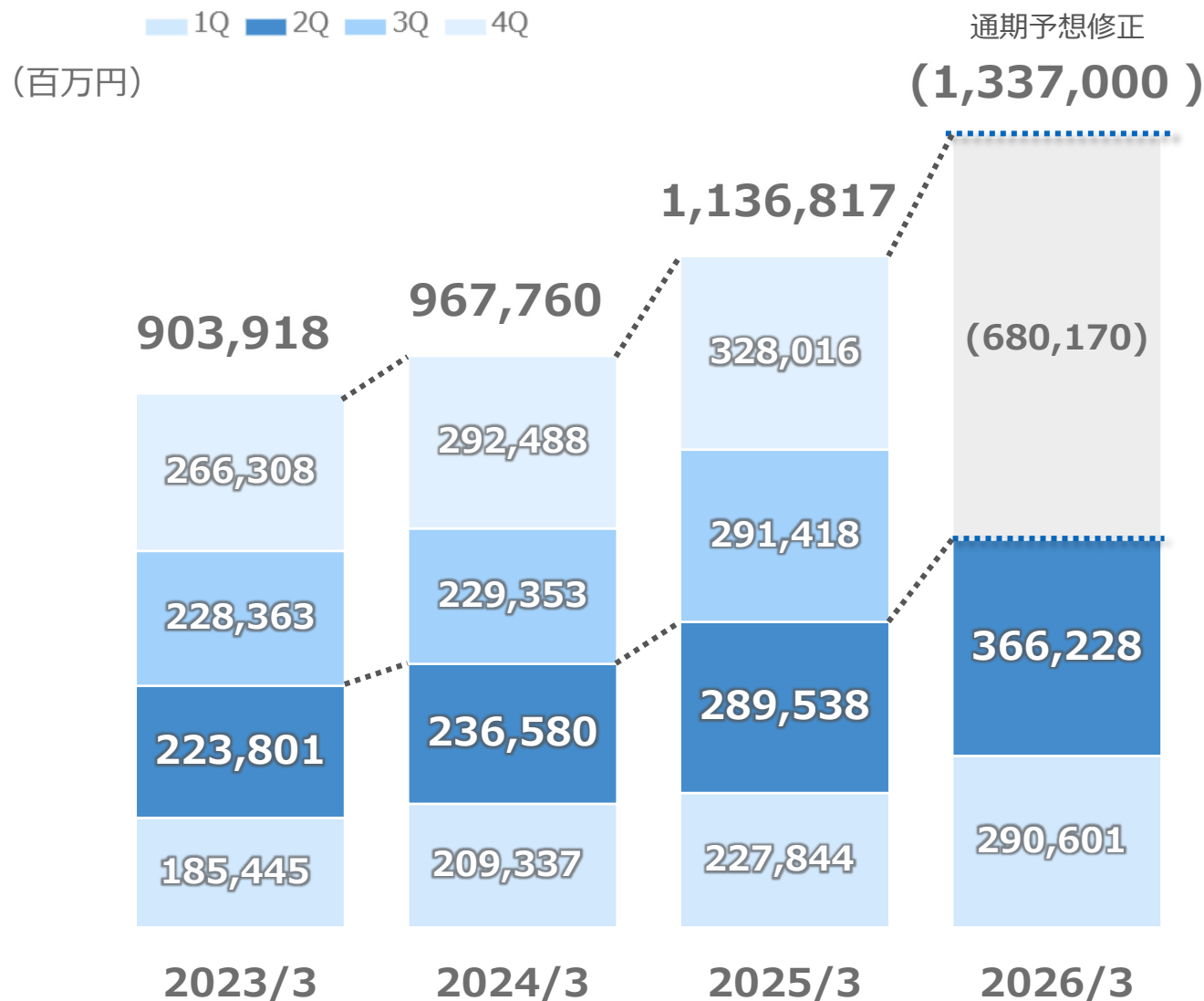
産業機械事業

- 工作機械部門では主力の航空機業界を中心に国内受注が回復傾向。今後の需要に備えた在庫拡充やサービス体制を強化
- 1Qに続き工作機械・自動機械両部門におけるサービス売上の他、自動機械部門における本体販売台数の増加が実績に寄与

業績予想修正

- 下期も企業向けのIT需要が堅調、またGIGAスクール第2期による更新需要も引き続き好調に推移する見通しのため、下期および通期の業績予想を上方修正

2026年3月期 第2四半期 売上高 (4～9月)



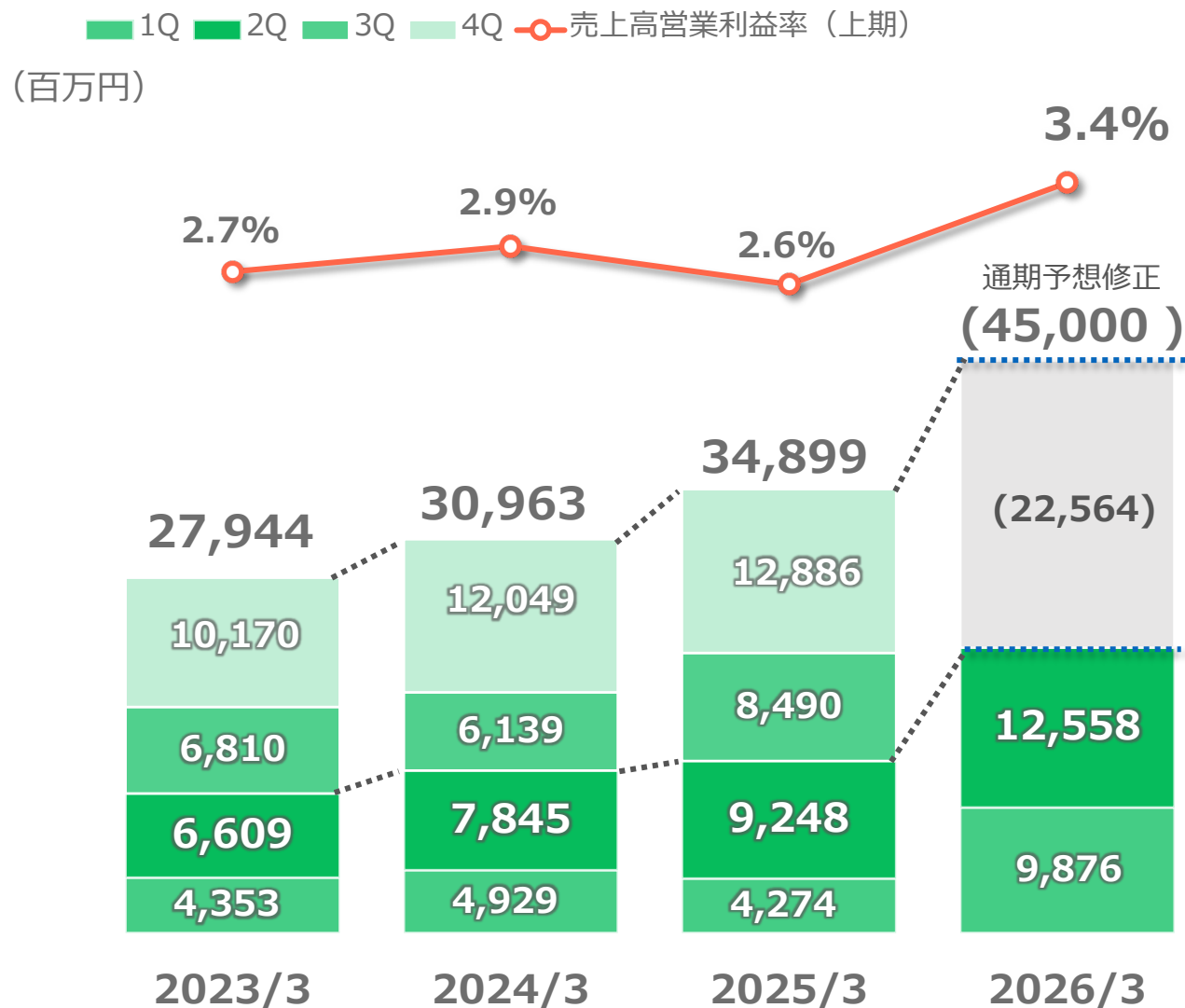
売上高 **6,568**億円

前年同期比 + **27.0%**

通期進捗率 **49.1%**

上期として
最高売上高を更新

2026年3月期 第2四半期 営業利益（4～9月）



営業利益 **224**億円

前年同期比 + **65.9%**

営業利益率 **3.4%**

通期進捗率 **49.9%**

上期として
最高営業利益を更新

2026年3月期 第2四半期 連結決算概況（4～9月）

(百万円)	2025/3 2Q	2026/3 2Q	増減	前年 同期比	修正後 通期予想	進捗率
売上高	517,383	656,830	+139,447	+27.0%	1,337,000	49.1%
営業利益	13,522	22,435	+8,912	+65.9%	45,000	49.9%
経常利益	13,839	22,608	+8,768	+63.4%	45,300	49.9%
親会社株主に帰属する 中間純利益	9,474	15,736	+6,262	+66.1%	30,800	51.1%
1株当たり 中間純利益（円）	102.52	176.04	+73.52			

(百万円)	2025/3	2025/9	増減	主な増減理由
総資産	440,122	454,664	+14,542	商品及び製品在庫の増加
純資産	152,310	161,224	+8,913	利益剰余金の増加
自己資本比率	34.6%	35.5%		

2026年3月期 第2四半期 セグメント別業績（4～9月）

(百万円)		2025/3 2Q	2026/3 2Q	増減	前年同期比
売上高	ITインフラ流通	511,053	649,692	+ 138,639	+ 27.1%
	産業機械	6,329	7,137	+808	+12.8%
	合計	517,383	656,830	+ 139,447	+ 27.0%
営業利益	ITインフラ流通	13,170	21,843	+ 8,673	+ 65.9%
	産業機械	348	585	+237	+68.2%
	(調整額)	4	5	+1	+38.9%
	合計	13,522	22,435	+ 8,912	+ 65.9%

売上高

両セグメントとも販売実績の伸長による増収

営業利益

ITインフラ流通事業の販管費率の減少、また産業機械事業における増収効果、収益性の高いサービス売上伸長による増益

| 当社事業の強みと戦略

総合商社

専門商社

食品

繊維

鉄鋼

化学

ITインフラ流通

機械

医薬品

燃料・エネルギー

電子・半導体

日用品・化粧品

DIS

ダイワボウ情報システム株式会社

**国内最大級の
IT専門商社**

社員数 : 2,600名
拠点数 : 101拠点(国内)
取扱いメーカー数 : 1,500社
取扱いアイテム数 : 290万
販売パートナー数 : 19,000社

※2025年9月末時点



【大阪本社】

中之島フェスティバル
タワー・ウエスト10F



【東京本社】

住友不動産

東京三田ガーデンタワー11F

【参考情報】「会社四季報」業界地図 2024年度版

地域に密着した営業体制

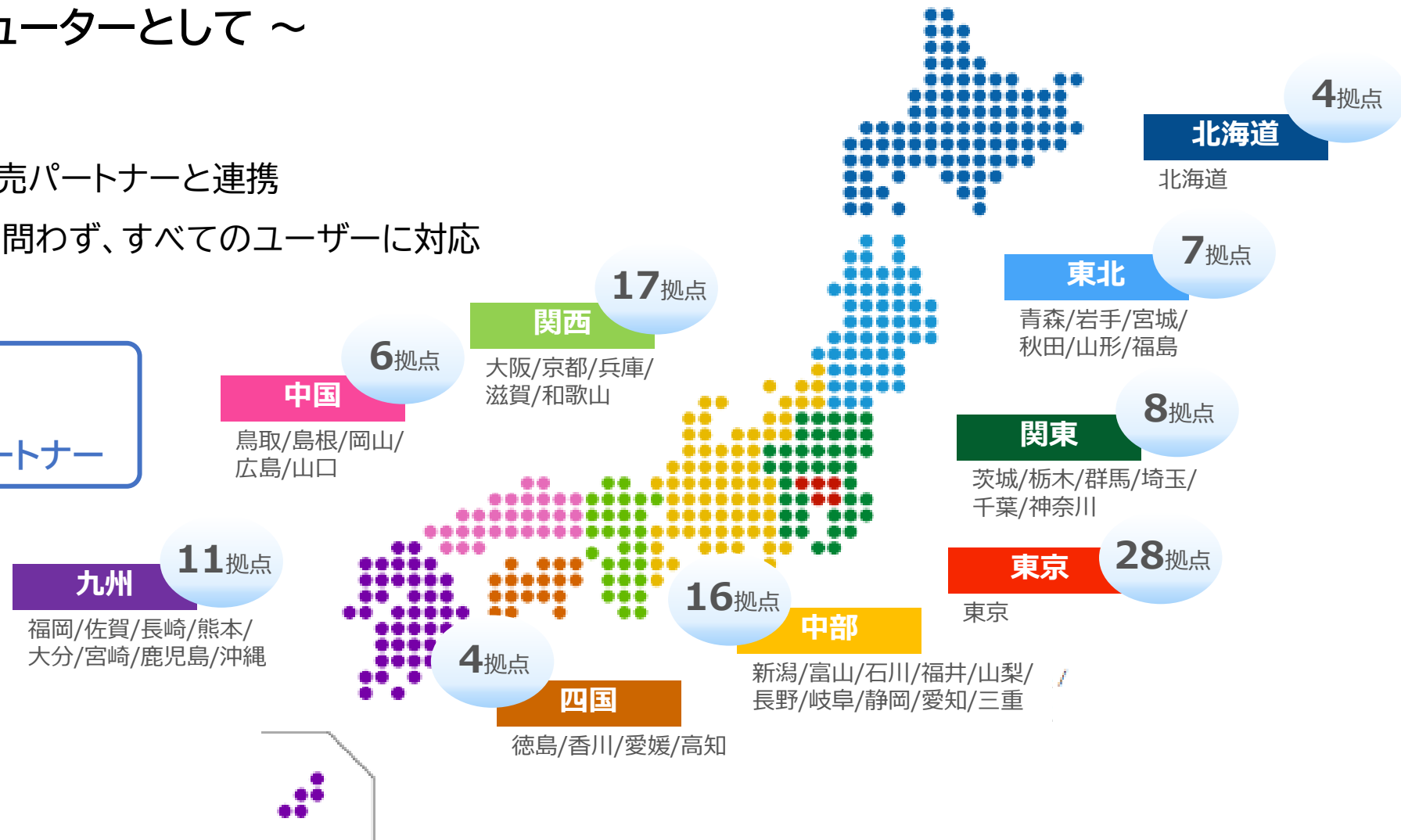
～ 顔の見えるディストリビューターとして ～

- ◆ 全国に営業拠点を整備
- ◆ 近くの営業担当者が現地の販売パートナーと連携
- ◆ エリアやエンドユーザー業種を問わず、すべてのユーザーに対応

全国**101**拠点の営業網
全国**19,000**社の販売パートナー

エンドユーザー
全国**180,000**社以上

※販売パートナー経由の販売で認識可能数



主要取扱メーカー（一部抜粋）

国内シェアNo.1
メーカー多数

メーカー1,500社 取扱商品290万アイテム 常時在庫3万点



※アルファベット順

ダイワボウ情報システム（DIS）の歩み

1982 DIS創業

- 大和紡績が、PC活用による生産現場のモニタリングシステムを自社開発したノウハウを生かして、わずか10名でスタート
- システム開発・販売ではなく、PCをはじめとした情報機器の販売にシフト

1983-1984 多店舗展開

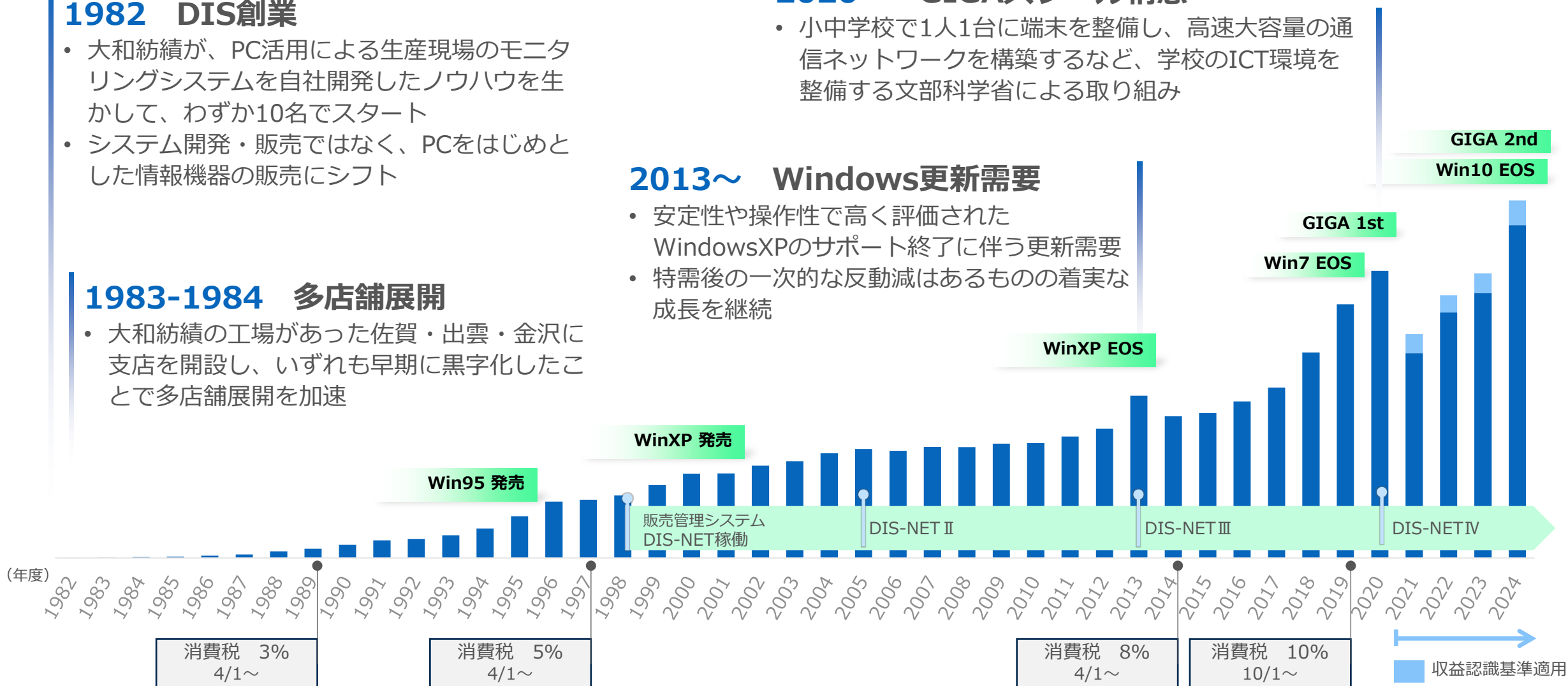
- 大和紡績の工場があった佐賀・出雲・金沢に支店を開設し、いずれも早期に黒字化したことで多店舗展開を加速

2020～ GIGAスクール構想

- 小中学校で1人1台に端末を整備し、高速大容量の通信ネットワークを構築するなど、学校のICT環境を整備する文部科学省による取り組み

2013～ Windows更新需要

- 安定性や操作性で高く評価されたWindowsXPのサポート終了に伴う更新需要
- 特需後の一次的な反動減はあるものの着実な成長を継続



ITインフラ流通事業の事業構造

メーカー
(仕入先) 

世界中のメーカー
の豊富な商品群

約1,500社

約290万アイテム



PC
PCs



SIMフリー端末・
スマートフォン
SIM free terminal,
Smartphones



ペリフェラル
Peripherals



ネットワーク
Network



ソフトウェア
Software



通信・クラウド
Communication,
Cloud

DIS
全国101拠点の営業網

オリジナル販売管理システム

iDATEN(韋駄天)

iKAZUCHI(雷)

サービス&サポート機能

設定・設置・オリジナル保守・コールセンター

全国をカバーする物流拠点

入荷～在庫～配送までメーカー倉庫代行
キitting

プロモーション機能

オリジナルマガジン「PC-Webzine.com」
イベント開催 (DISわあるど/ICT EXPO/オン
ラインセミナーなど)

販売
パートナー 

約19,000社

商社

SIer・Nier

事務機器販売店

量販店・専門店

通信回線業者

EC事業者

ユーザーニーズ
の多様化

法人向け

企業

官公庁

教育関連

医療機関

個人向け

一般のお客様



メーカーへの疑問

Q.DISを経由するメリットは？

A.全国の販売網に素早く商品展開が可能

Q.なぜDISが選ばれているのか？

A.販売効率、回収効率、在庫リスク軽減

Q.なぜ物流までDISに任せるのか？

A.物流コスト削減（メーカー倉庫代行）

販売パートナーへの疑問

Q.メーカーから直接買う方が安いのでは？

A.大量調達によるコストメリット

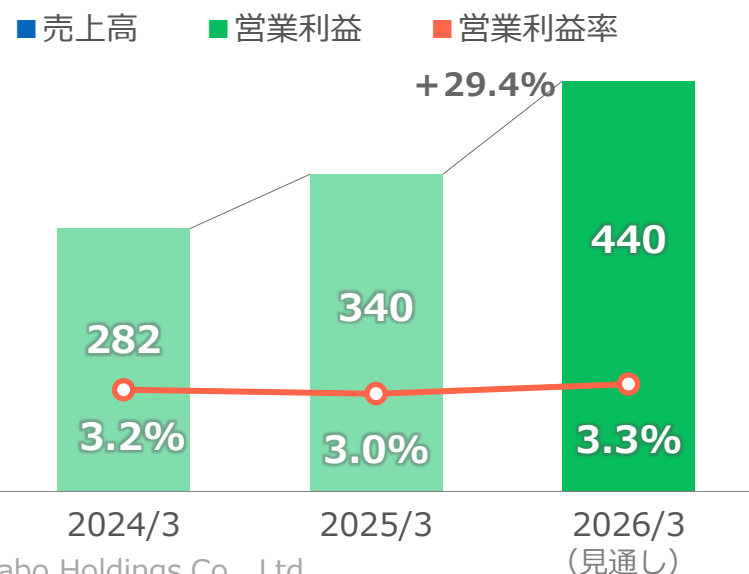
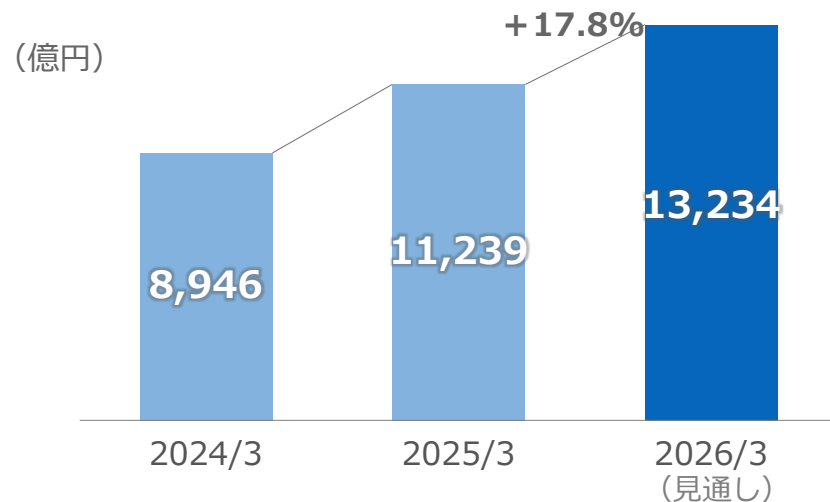
Q.なぜDISが選ばれているのか？

A.品揃え、地域密着シングルウィンドウ

Q.商品調達以外に得られるメリットは？

A.情報提供、営業サポート、物流代行

実績推移と今期予想



成長分野であるクラウドサービスの提案強化



PC・タブレットなどの実績拡大



海外ベンダー拡販による事業領域の拡大



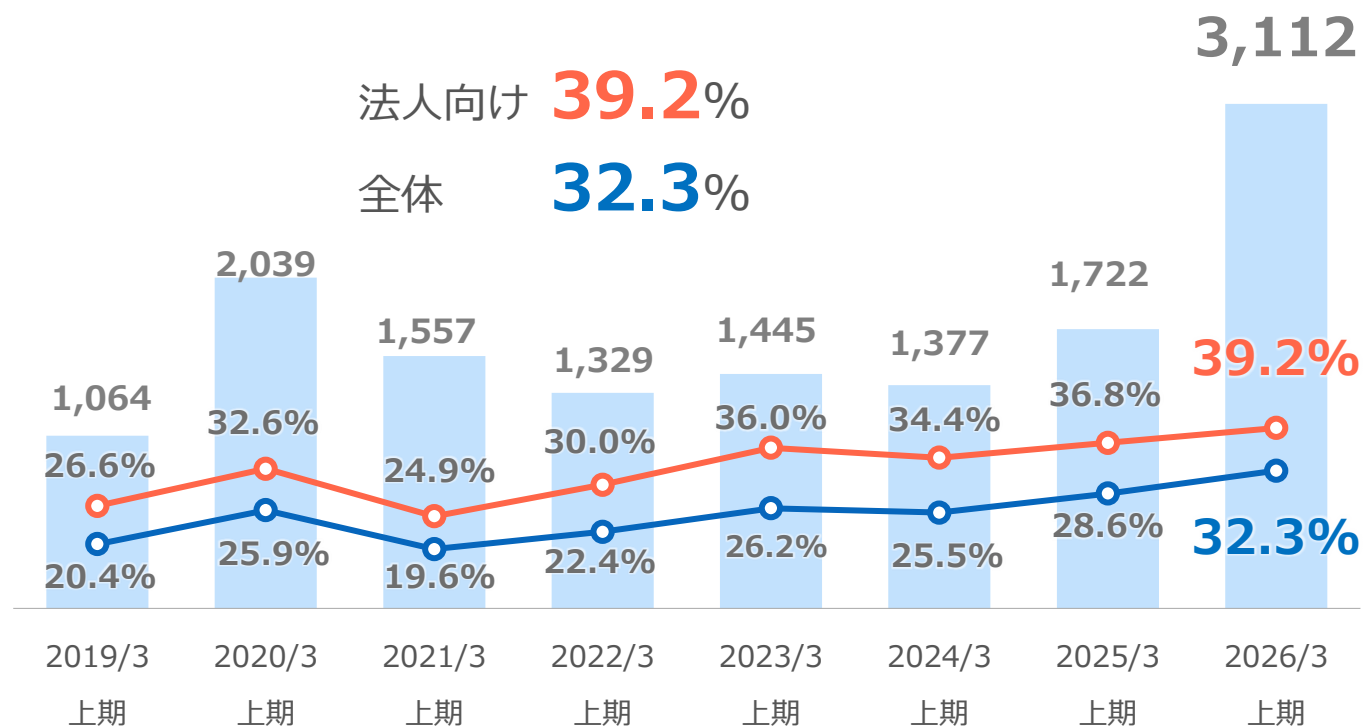
事業強化に向けた戦略的投資の実施

国内のPC3台に1台当社が関与

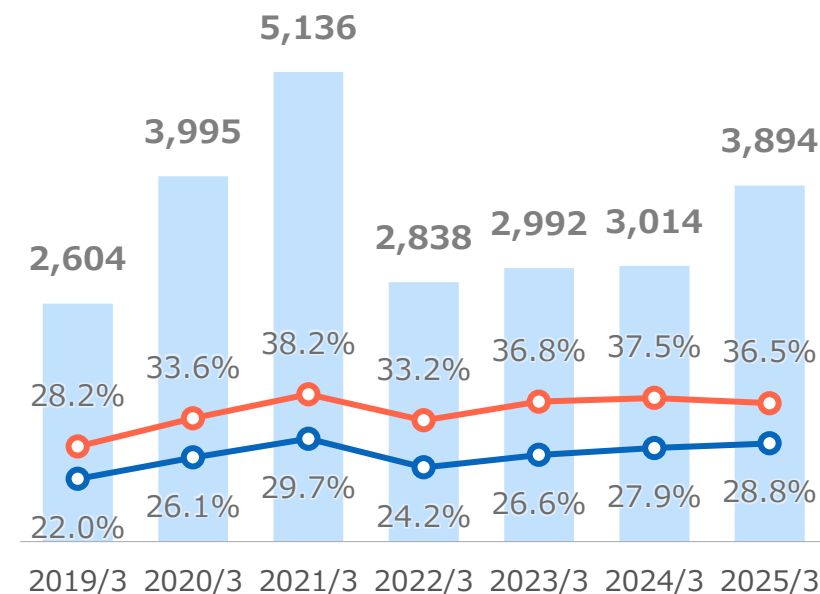
上期PCシェア実績推移

(上期速報値)

- 当社PC出荷台数（千台）
- DIS国内シェア（法人向け）
- DIS国内シェア（全体）



通期PCシェア推移



※MM総研調査結果より算出
(2026/3上期は調査会社の速報値をベースにしているため、シェアの公表値を変更する可能性があります)

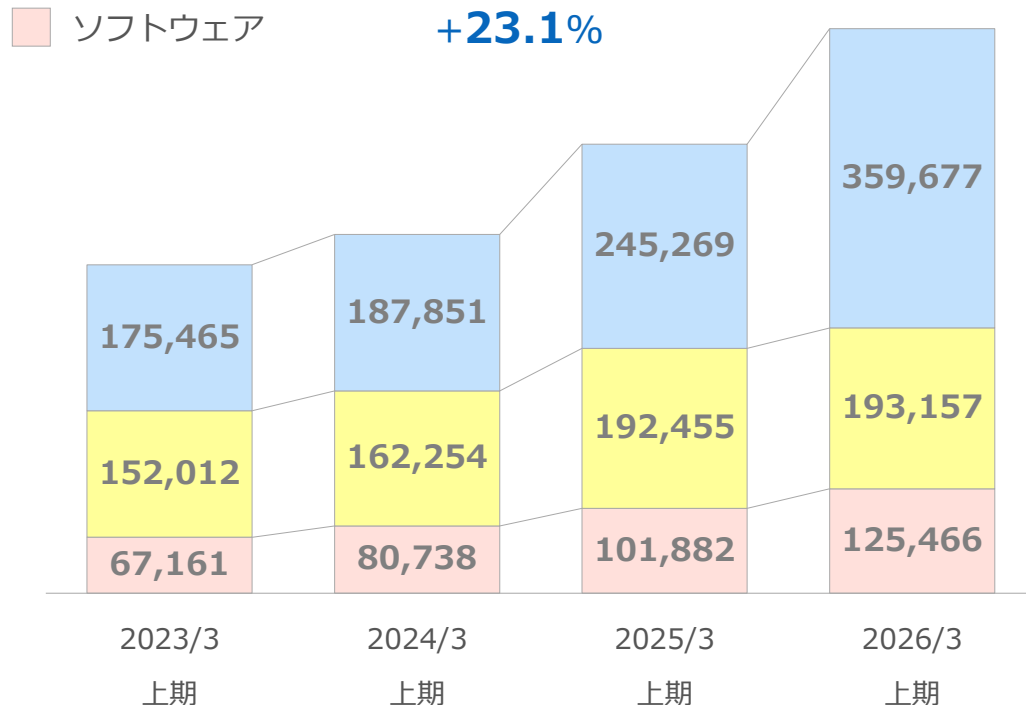
(百万円) <DISカテゴリ別取扱高推移>

前年同期比

PC本体* **+46.6%**

周辺機器・サービス等 **+0.4%**

ソフトウェア **+23.1%**



*PC本体=PC、サーバー、タブレット、スマートフォン等の端末本体

2026年3月期第2四半期ハイライト

■ PC本体*等

- 主にWindows更新需要によるPC出荷額（+53.6%）とGIGAスクールによるタブレット出荷額（+77.2%）が大幅に増加
- サーバーはデータセンター等のITインフラ構築案件を中心に受注したが、前年同期に獲得した大型案件の反動により減少（△4.9%）

■ 周辺機器・サービス等

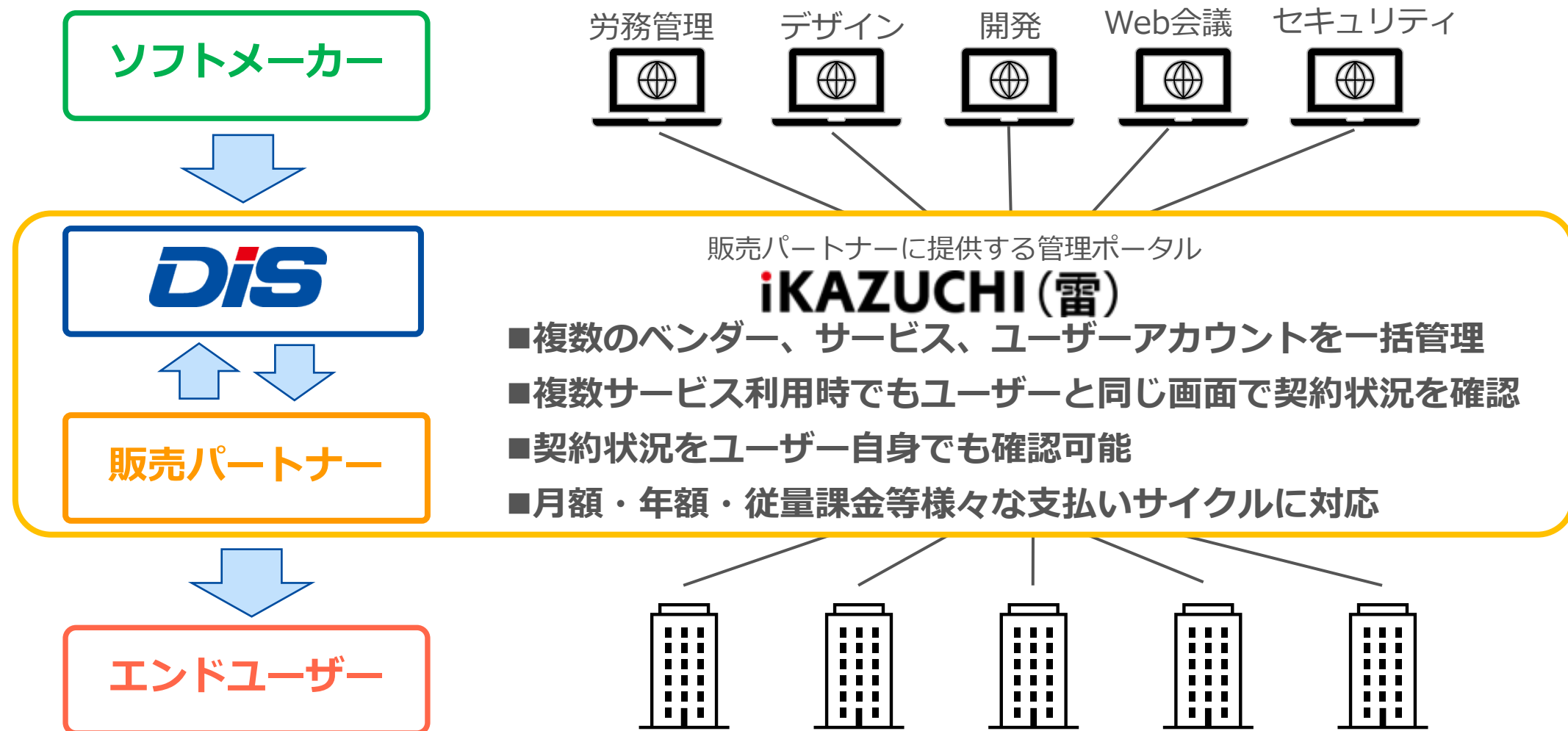
- 前年同期に獲得した大型案件の反動によりネットワーク（△7.5%）、ストレージ（△16.3%）が減少
- PC更新需要増加に伴いサービス&サポート（+13.0%）サプライ等（+6.3%）が伸長

■ ソフトウェア等

- iKAZUCHI(雷)取扱高 +37.2%
- PC増加によるMicrosoft365のクロスセル提案やGIGAスクールでのソフトウェア購入により、クラウドサービスの実績が伸長
- IaaS関連サービス（AWS、Azure等）も継続的に拡大

iKAZUCHI（雷）によるサブスク管理

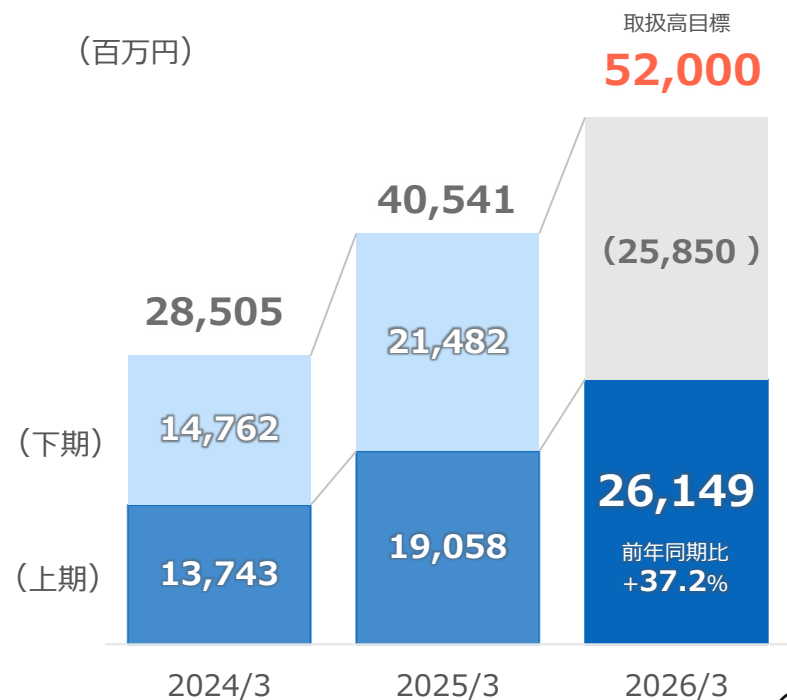
■ iKAZUCHI（雷）とはサブスク管理プラットフォーム



iKAZUCHI（雷） 経由の取扱高

iKAZUCHI(雷)を利用した取扱高

サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」を通じた
販売パートナーへの販売総額（ソフトウェアの内数）



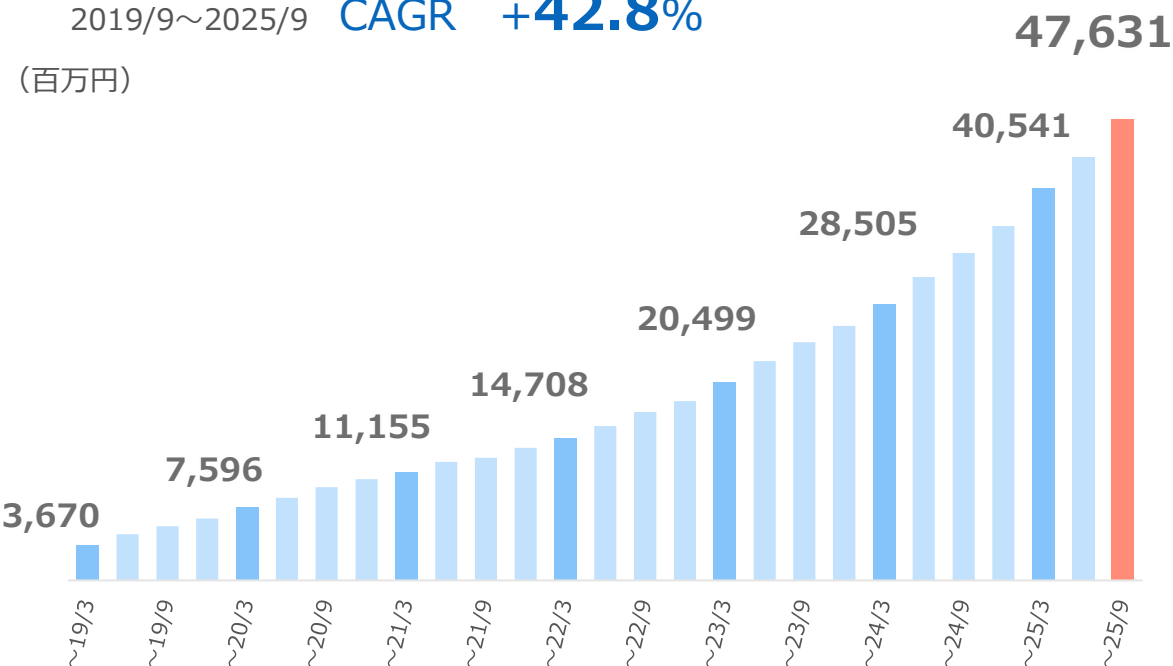
サブスクリプションビジネスの
市場を拡大し継続収益の「地盤」を強化



■iKAZUCHI（雷）

12カ月累計取扱高の推移（年額課金等を考慮）

2019/9～2025/9 CAGR **+42.8%**



iKAZUCHI（雷）の成長軌道

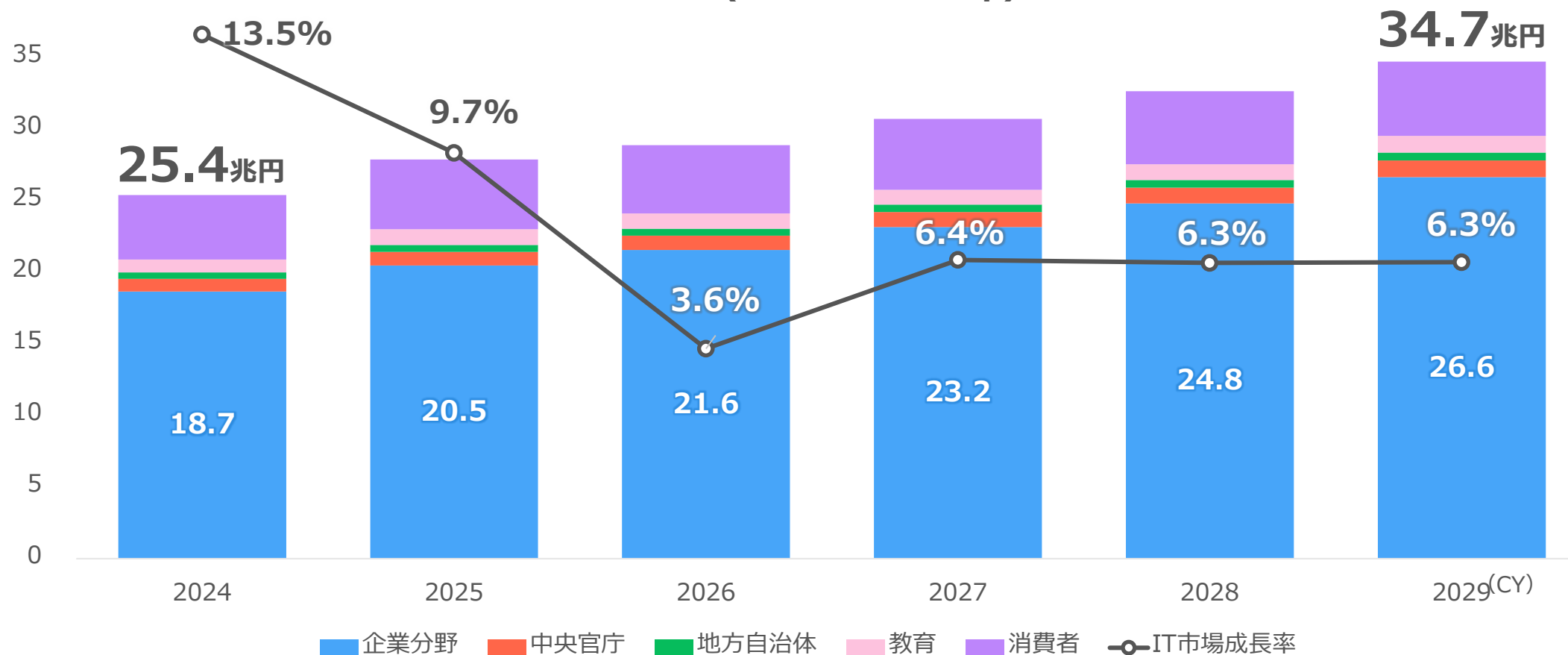
課金形態として年額での購入比率が高いため、四半期毎ではなく12カ月累計の推移を見ることで着実な成長を確認

産業分野別 IT市場予測（2025年～2029年）

(兆円)

国内IT市場産業分野別支出額予測※1

➤ CAGR6.4%（2024～2029年）

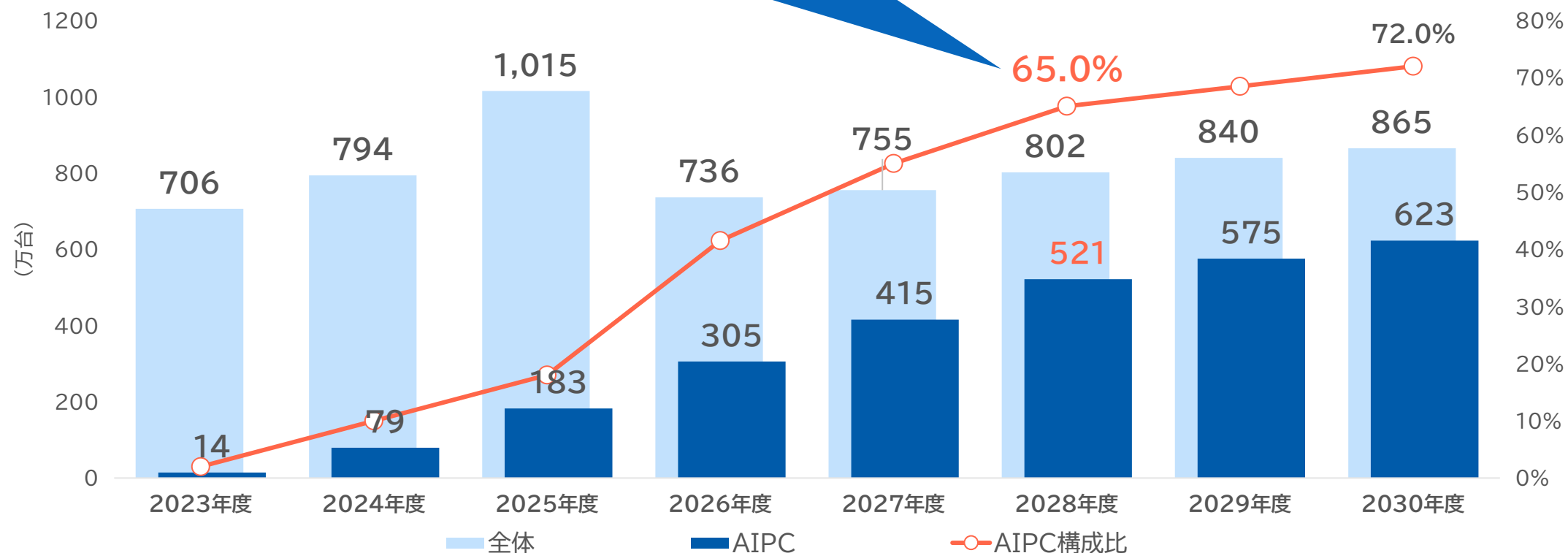


※1 IDC Japan, 2025/5「国内IT市場 産業分野別／従業員規模別／年商規模別予測、2025年～2029年」
(JPJ52157925) を基に当社作成

AI PC法人向け市場予測

(MM総研 AI PC 法人向け市場予測：2024年7月1日発表)

年間出荷の3分の2に相当する
521万台まで拡大



AI PCの定義・・・CPUやGPUに加えて、AI処理専用のNPUを搭載したパソコン

物流センター効率化

関西センター（神戸市）



2020年5月稼働

倉庫面積：36,342㎡

関東中央センター（埼玉県吉見町）



2016年6月稼働

倉庫面積：44,753㎡

ロボットストレージシステム

→作業効率・スペース最適化

【ロボット稼働台数】

関東中央：45台、関西：30台

キittingセンター併設

→入荷＞作業＞出荷に迅速対応

PC・タブレット
キitting実績：年間26.2万台（2025/3期）

トラック予約受付システム

→入出荷情報の共有・車両平準化



東西メガセンターを中心に
効率化・生産性向上に注力



立旋盤、鉄道車輪旋盤の
国内トップメーカー

創設	:	1949年7月
本社	:	大阪市淀川区
拠点数	:	9拠点(海外2拠点含む)
社員数	:	487名(グループ)

※2025年9月末時点



オーエム製作所 長岡工場（新潟）
2024年12月に工場の拡張工事が完了
長岡工場全体での生産能力が20%UP

立旋盤

中・大型立旋盤
国内シェアNo.1



立旋盤のオーエム



車輪旋盤

床下車輪旋盤
国内シェアNo.1



鉄道の安全を影で守り抜く

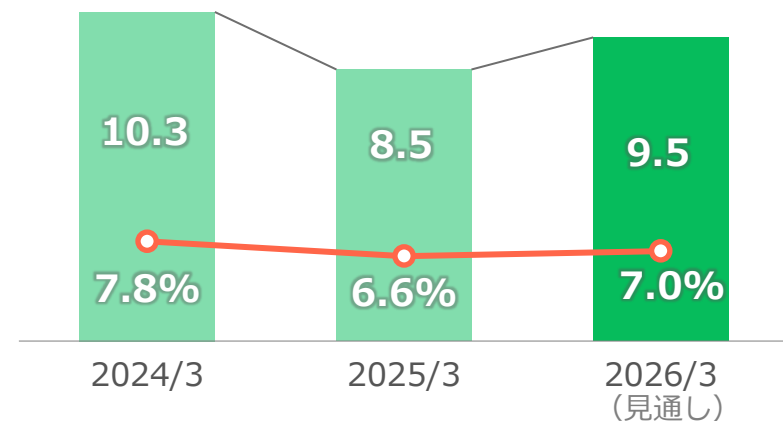
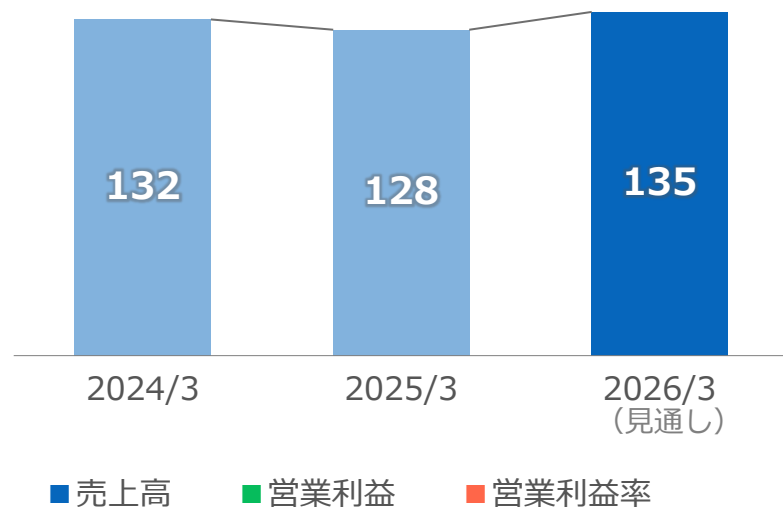


自動機械



実績推移と今期予想

(億円)



工作機械における潜在市場への事業拡大



自動機械における省人化ニーズの取り込み



サービス強化による収益力向上

| 中長期ビジョン『2030 VISION』

中長期ビジョン『2030 VISION』

エクイティストーリー

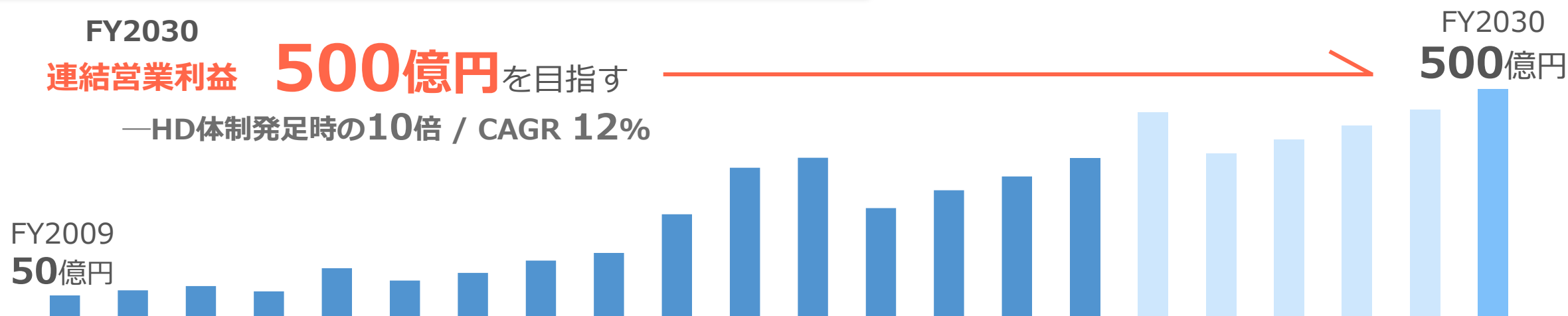
IT分野を軸に
新たな事業領域へ経営資源を投入し
バリューチェーンのさらなる発展に
つながるグループ体制を構築する

「なくてはならない企業グループ」へ

社会に求められる事業モデルを創造する

All-in-One Solution Company

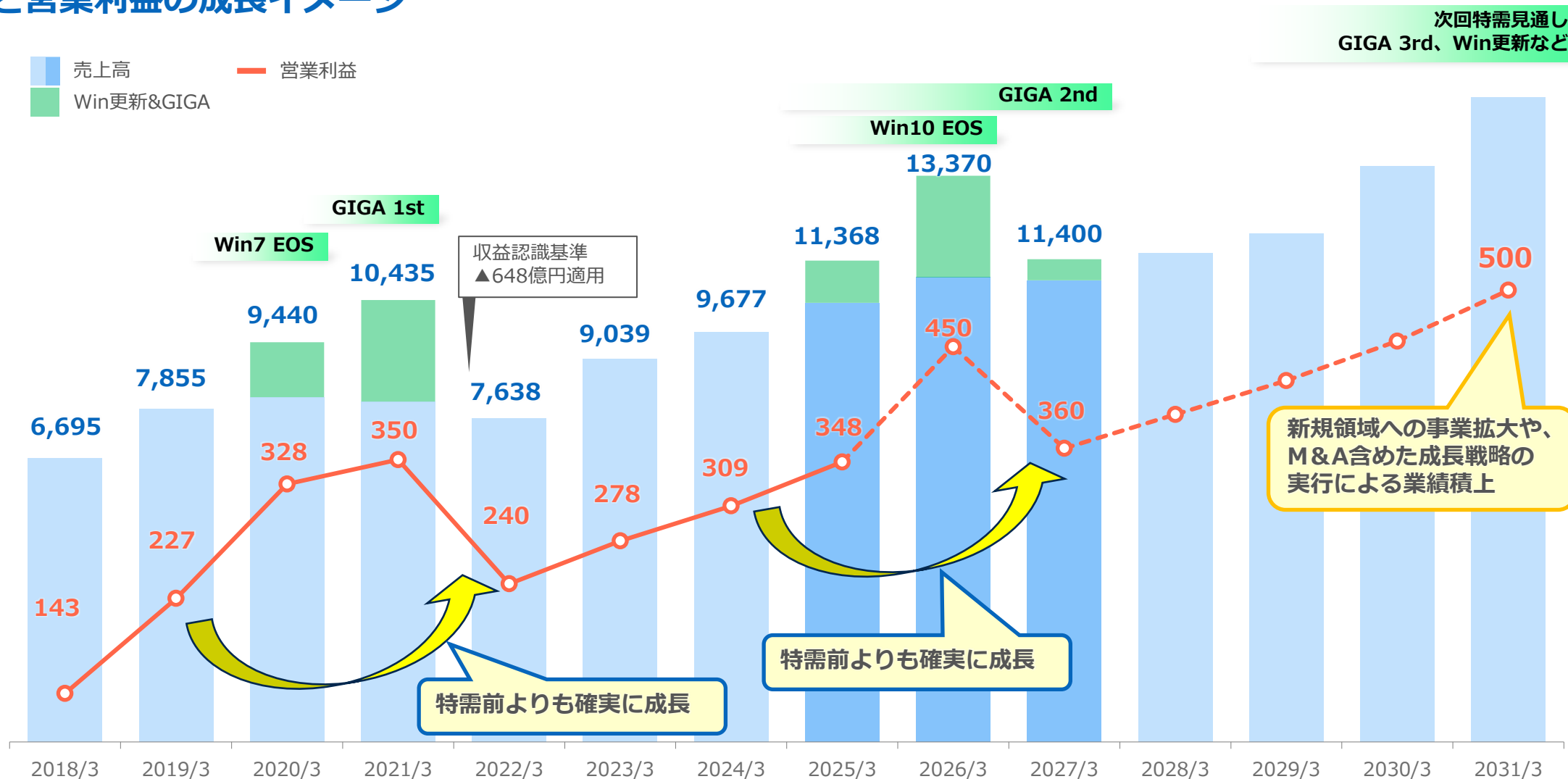
ディストリビューションを不動のコアに
IT市場全体を“つなぐ”



中長期ビジョン『2030 VISION』の実現に向けて

(億円)

売上と営業利益の成長イメージ

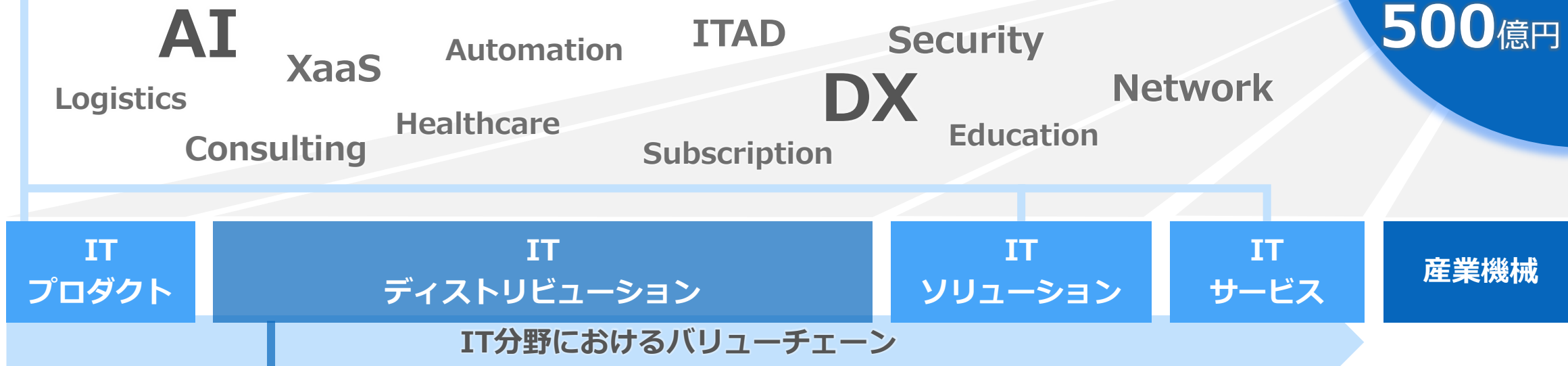


『2030 VISION』で達成したい当社のあるべき姿

新規領域は知見のあるIT市場の周辺分野や
AI・DX関連を含めた先進テクノロジー分野を中心に模索

FY2030目標
連結営業利益

500億円



コア領域のさらなる強化・深化に向けて

3つのS【 Service / Solution / Sustainability 】を中心に機能拡充

迅速な意思決定と投資が可能なホールディングス体制の利点を活かして持続的成長を実現

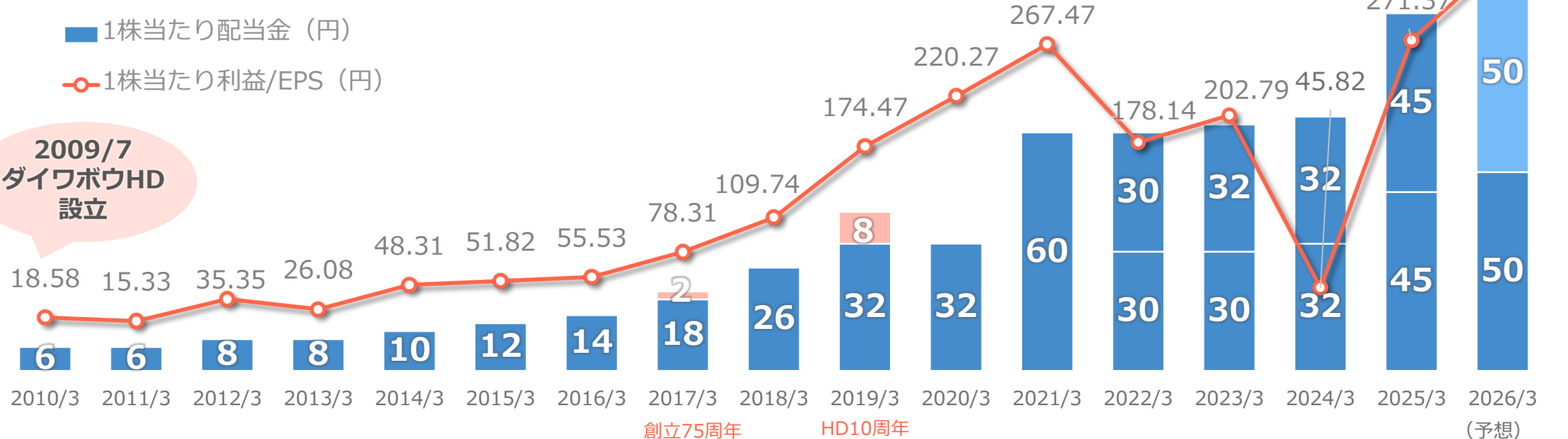
▶▶▶ あるべき姿の体現に向け社名変更も検討

| 株主還元

株主還元方針

株主還元方針	
配当	配当性向30%以上 現中期経営計画期間中は 累進配当 とする方針
自己株式取得	総還元性向 60%以上 を目安 機動的な自己株式取得 を組み合わせる 7,877,432株の自己株式を消却予定 (11/28)

2026年3月期（期末予想）			
1株配当	中間 50円	期末 50円	年間 100円
自己株式取得	上限 80億円 (2025/7/1～2026/2/27予定)		
配当性向	28.9%		
総還元性向	54.8%		



TSR 276.0% ※5年間（2020/3→2025/3）
株主総利回り

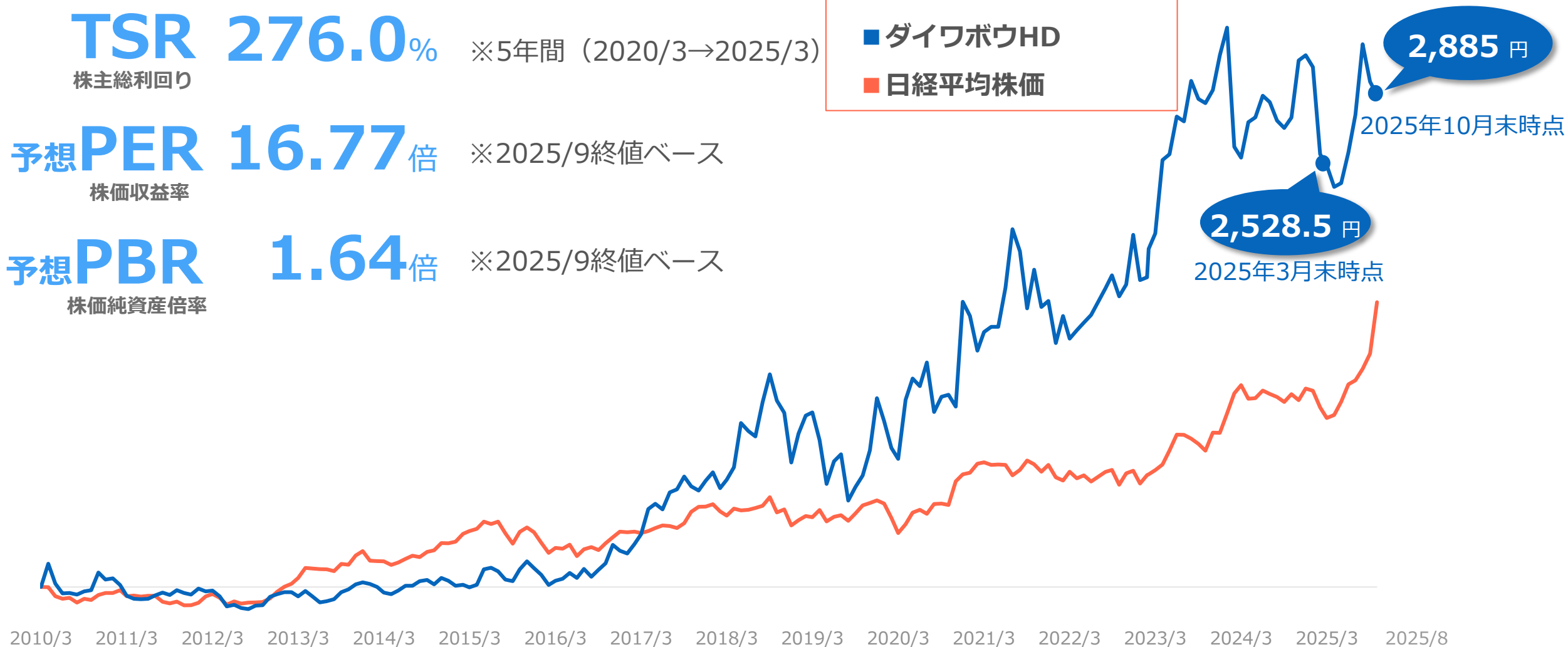
予想PER 16.77倍 ※2025/9終値ベース
株価収益率

予想PBR 1.64倍 ※2025/9終値ベース
株価純資産倍率

相対株価（月足・終値ベース）

■ ダイワボウHD

■ 日経平均株価



※株価は株式併合（2017/10/1）・株式分割（2021/4/1）を過年度に遡及して表示

当社コーポレートサイトのご紹介



<https://www.daiwabo-holdings.com/>

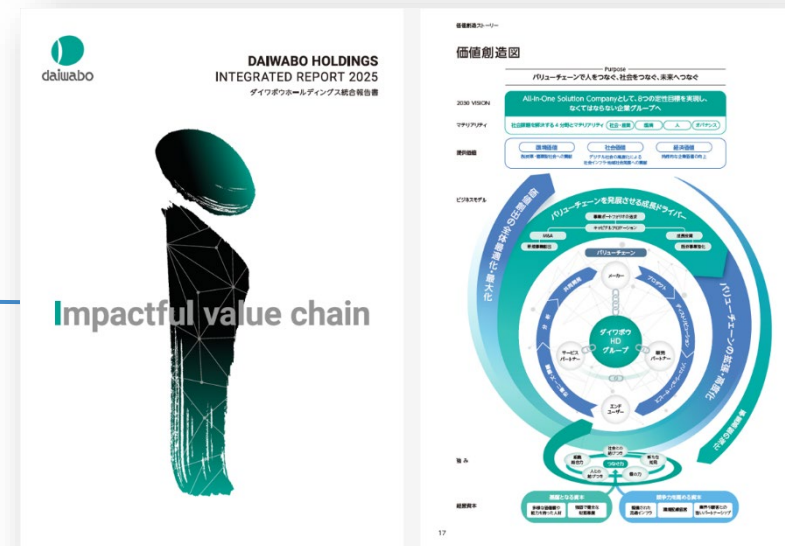


適時開示情報や事業ニュースをはじめ
事業紹介やIR資料などを発信しています

IR・投資家情報



統合報告書2025



【参考資料】

- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ 2026年3月期業績予想
- ▶ 業績推移グラフ

ITインフラ流通事業の「取扱高」について

取扱高

Transaction Volume

- 2021年3月期以前の売上高と同じ基準で算出
(= 会計基準変更前の売上高)
- 取引規模を示す上で重要な指標となるため「取扱高」として継続して活用
- 管理会計における営業評価

取扱高

売上高

「収益認識に関する会計基準」

適用による影響額

(2022/3期～)

一部の保守・保証サービス、iKAZUCHI(雷)によるソフトウェア販売など、会計基準上の「代理人取引」について、販売対価の純額を売上高に計上

売上高

Net Sales

- 2022年3月期以降の売上高
- 財務会計における業績評価

2026年3月期 通期業績予想

<上方修正>

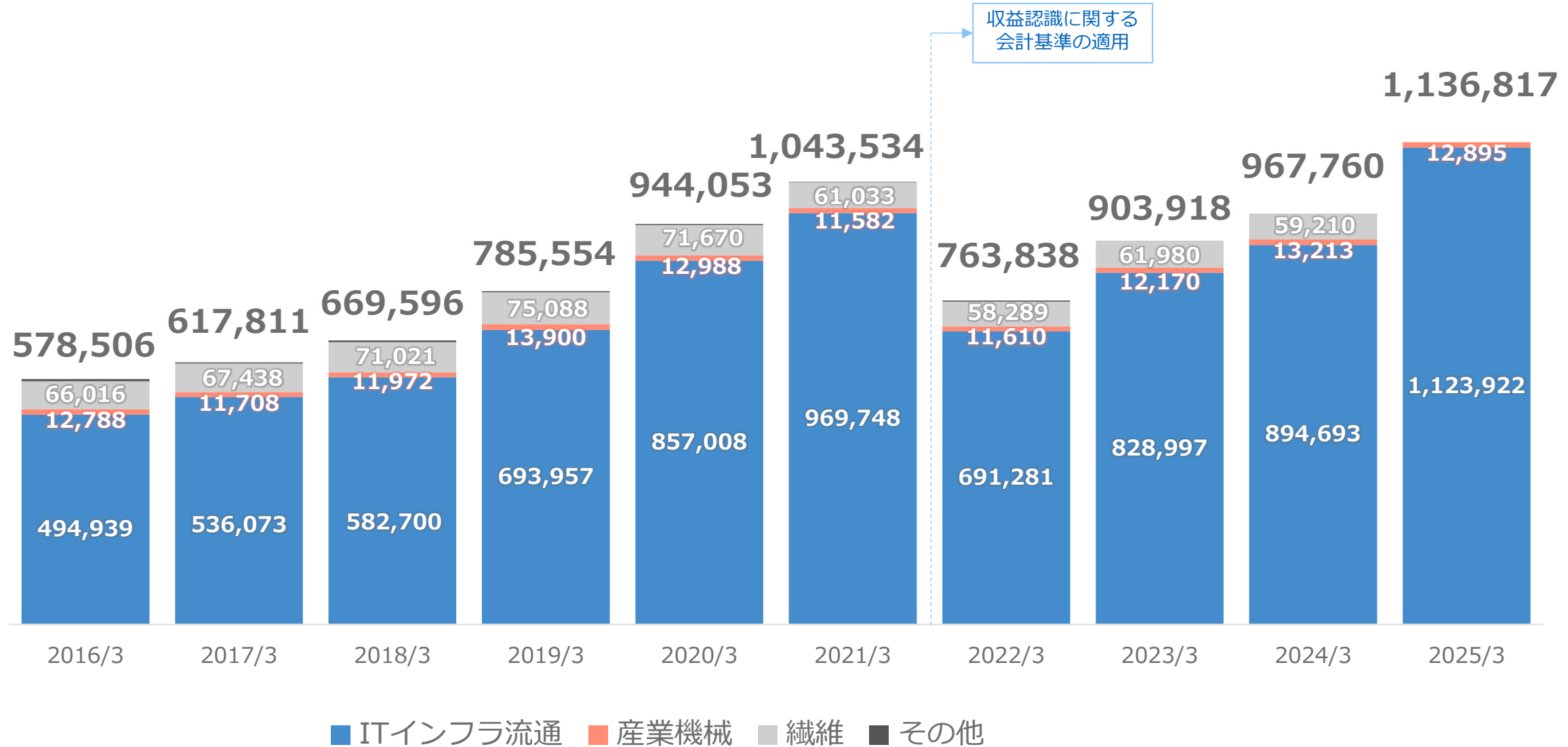
(百万円)	2025/3 (実績)		2026/3						増減額 ③-②	増減額 ③-前期	前年 同期比
			①期初予想 (5/14開示)		②修正予想 (8/5開示)		③修正予想 (11/6開示)				
			金額	率	金額	率	金額	率			
売上高	1,136,817		1,265,800		1,280,000		1,337,000		+ 57,000	+ 200,182	+ 17.6%
ITインフラ流通	1,123,922		1,254,000		1,268,200		1,323,450		+ 55,250	+ 199,527	+ 17.8%
産業機械	12,895		11,800		11,800		13,550		+1,750	+654	+5.1%
営業利益	34,899	3.1%	38,500	3.0%	43,530	3.4%	45,000	3.4%	+ 1,470	+ 10,100	+ 28.9%
ITインフラ流通	34,045	3.0%	37,800	3.0%	42,830	3.4%	44,050	3.3%	+ 1,220	+10,004	+ 29.4%
産業機械	852	6.6%	700	5.9%	700	5.9%	950	7.0%	+250	+97	+11.5%
経常利益	35,454	3.1%	38,800	3.1%	43,830	3.4%	45,300	3.4%	+ 1,470	+ 9,845	+ 27.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	24,751	2.2%	26,700	2.1%	30,100	2.4%	30,800	2.3%	+ 700	+ 6,048	+ 24.4%
1株当たり当期 純利益 (円)	271.37		297.26		335.73		346.04		+10.31	+74.67	

修正理由

下期も企業向けのIT需要が引き続き好調に推移し、GIGAスクール第2期による更新需要も継続する見通しのため、通期見通しを修正

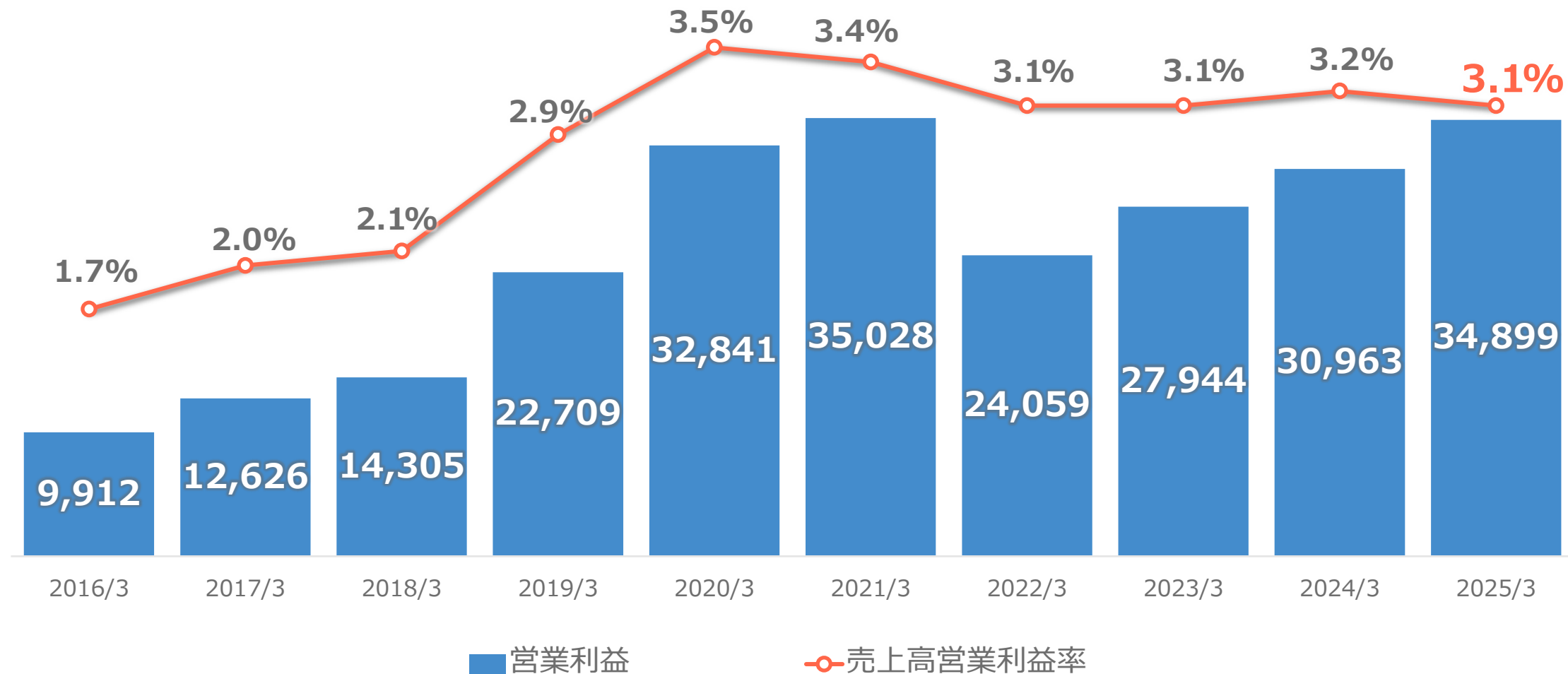
連結売上高

(百万円)



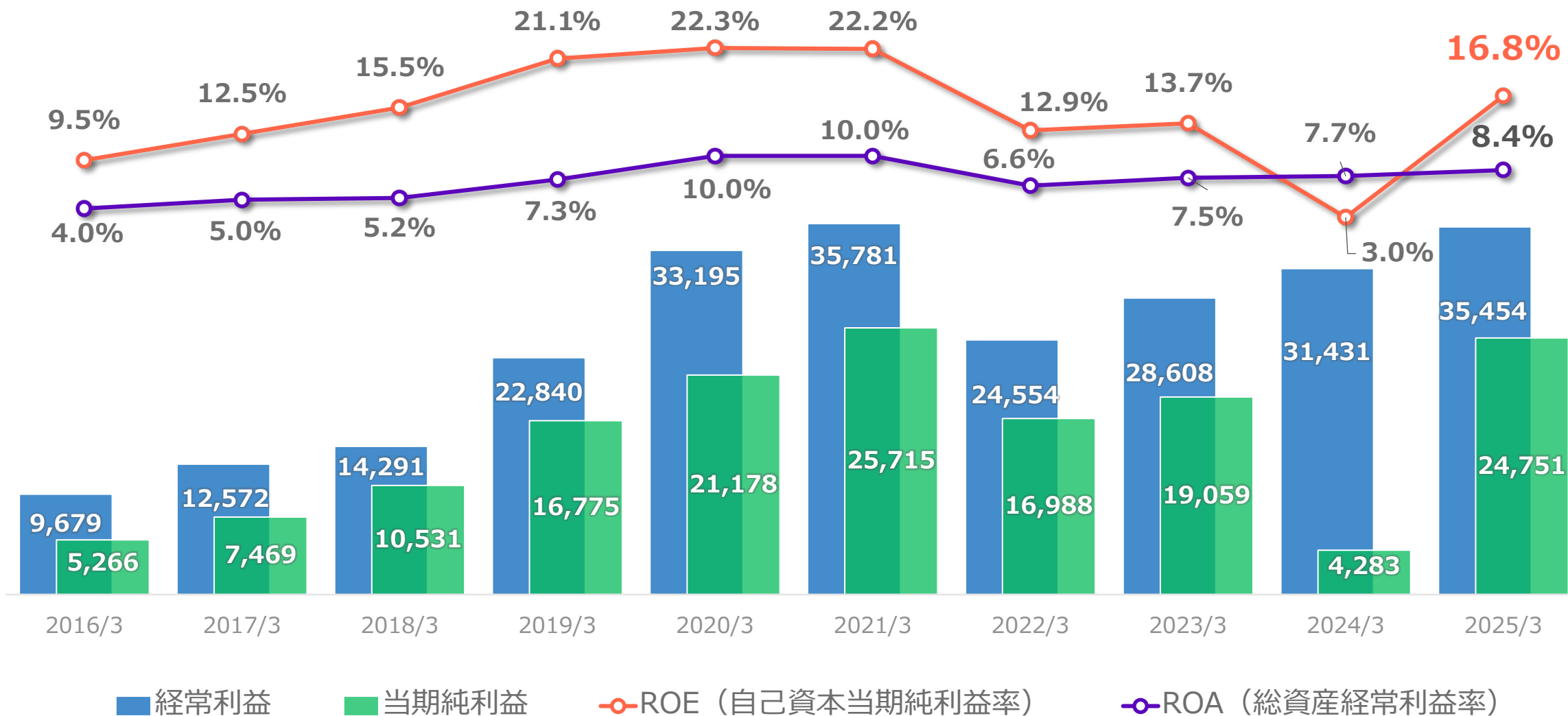
連結営業利益

(百万円)



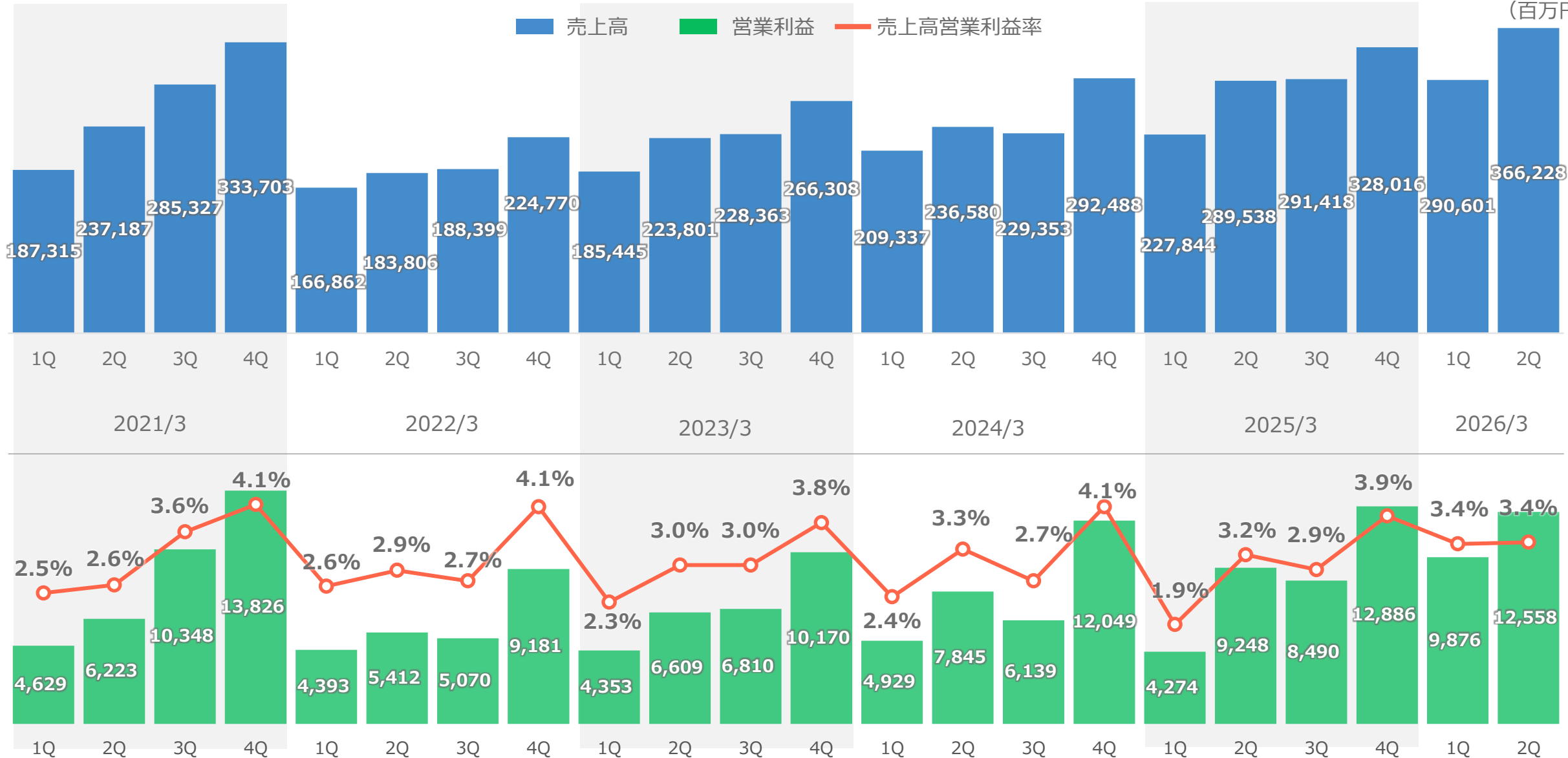
連結經常利益・連結当期純利益

(百万円)

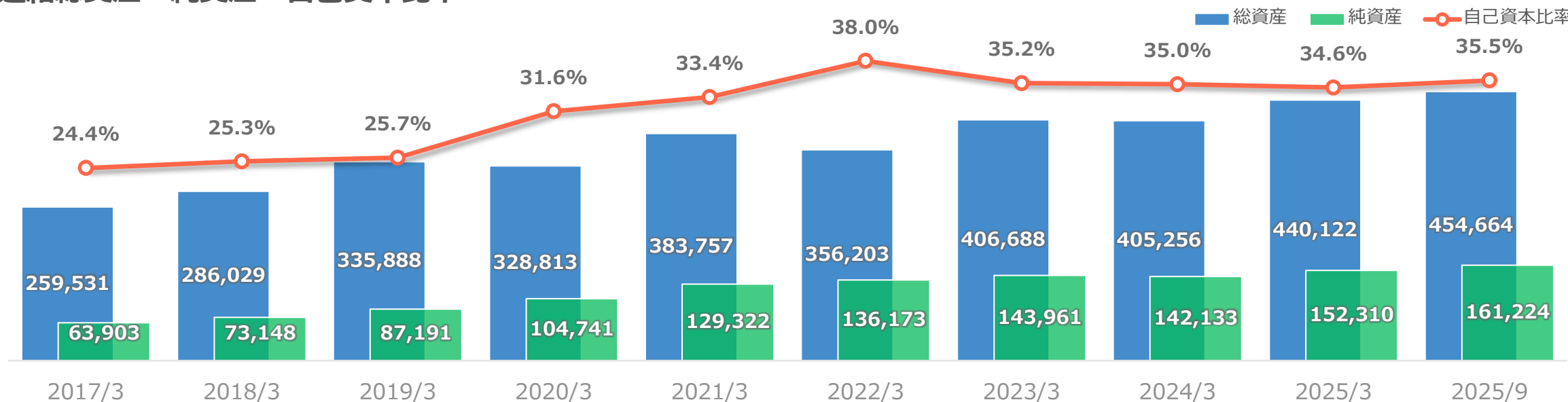


四半期別業績 推移

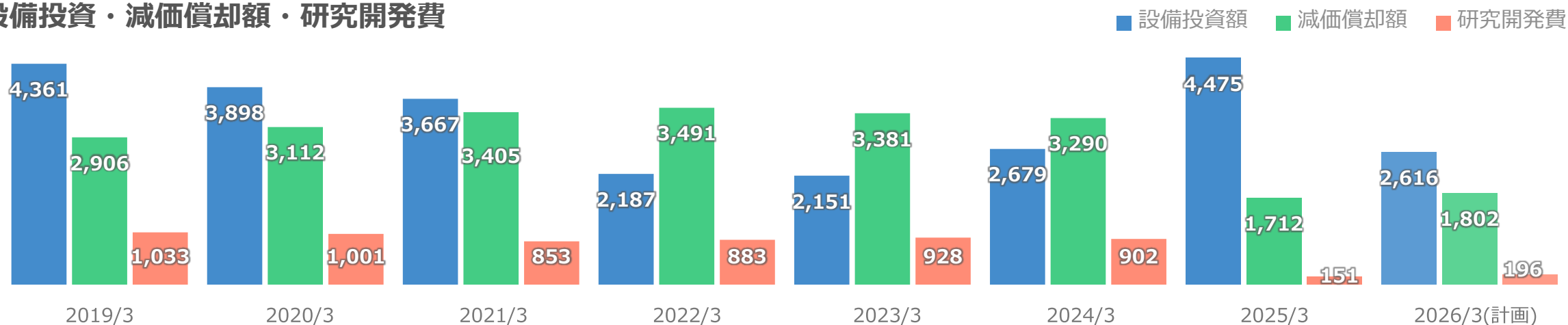
(百万円)



連結総資産・純資産・自己資本比率



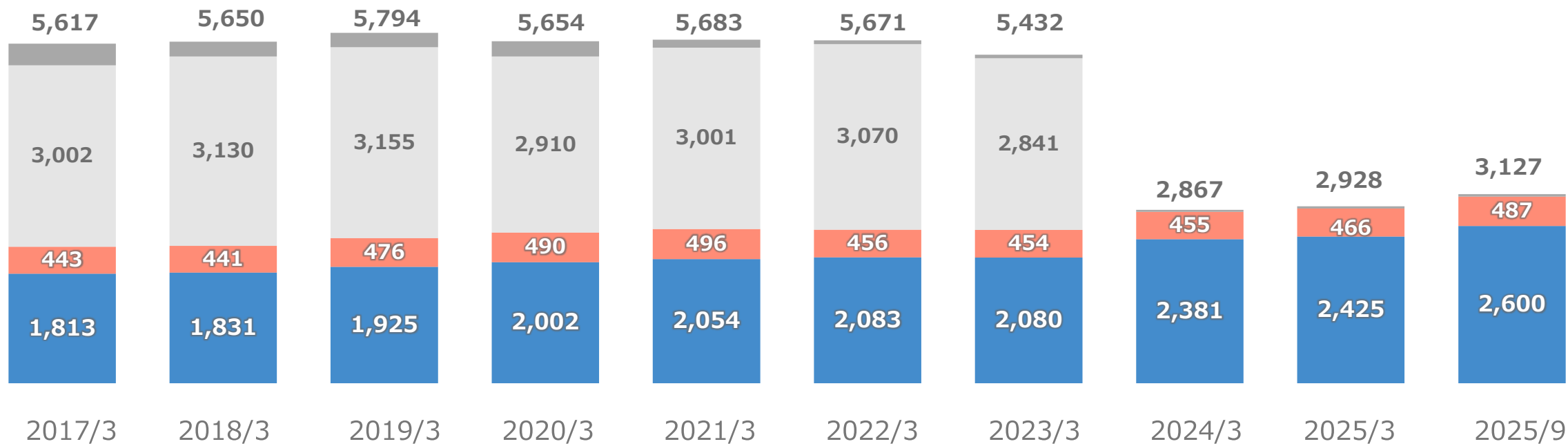
設備投資・減価償却額・研究開発費



セグメント別 従業員数

(人)

■ ITインフラ流通 ■ 産業機械 ■ 繊維 ■ その他



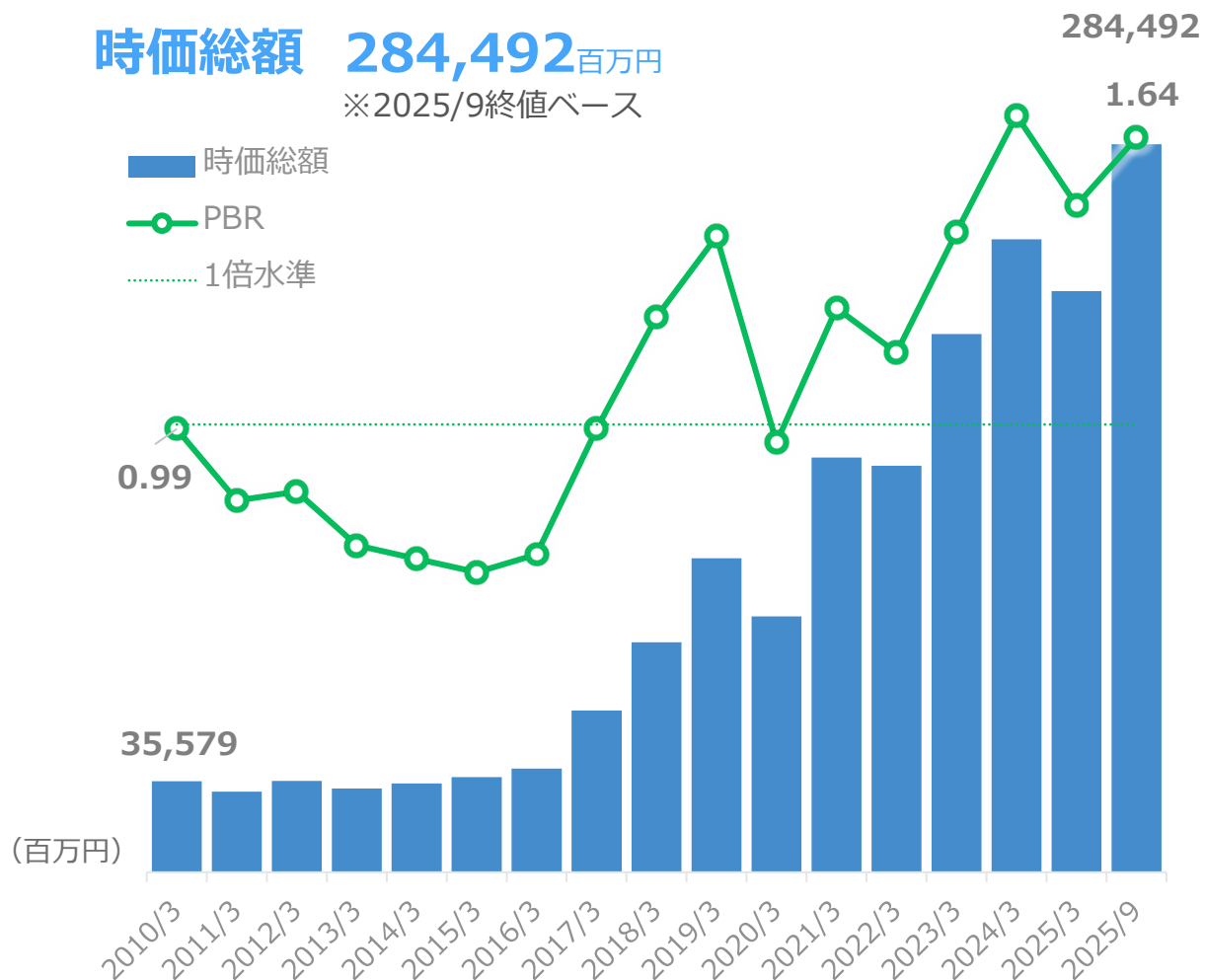
※各期間における最終日時点の人員数となります。

株価推移

PBR 1.64倍

時価総額 284,492百万円

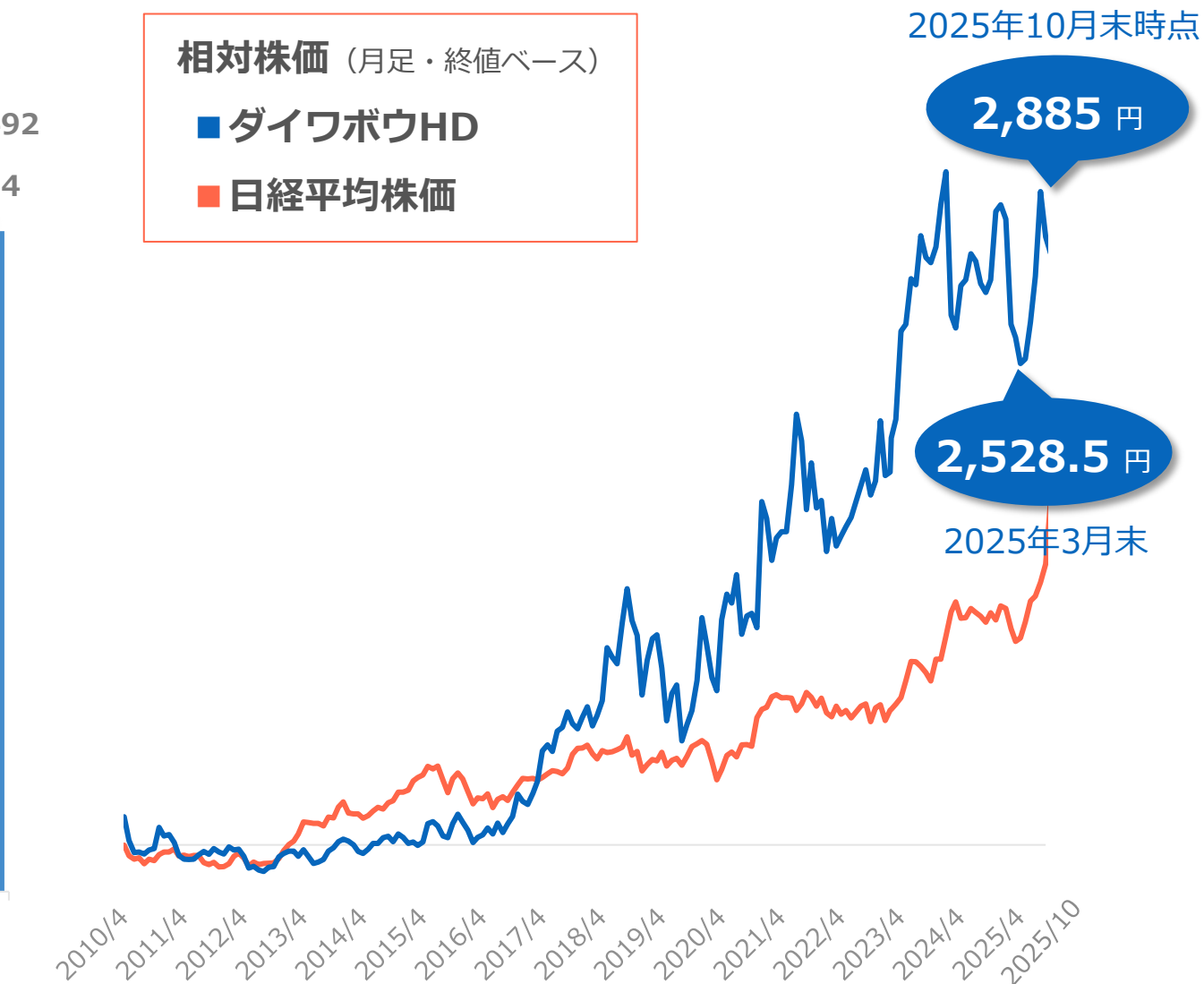
※2025/9終値ベース



相対株価 (月足・終値ベース)

■ ダイワボウHD

■ 日経平均株価



※当社株価は株式併合（2017/10/1）・株式分割（2021/4/1）を過年度に遡及して表示

<https://www.daiwabo-holdings.com/>



ダイワボウホールディングス株式会社

- 本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに、当社が現時点で合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因により本資料の内容と異なる可能性のあることをご承知おきください。
- 本資料中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。